

## 5 米国による対日制裁措置の強化

1426

昭和15年7月26日

在サンフランシスコ佐藤総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

### 石油や屑鉄への輸出許可制適用に関する米国

#### 紙報道振り報告

サンフランシスコ 7月26日後発

本 省 7月27日後着

第一八七號

二十六日當地各紙ハ石油屑鐵等輸出許可制適用ニ關スル  
華府通信ヲ第一面ニ掲ケ注目ヲ引キ居ル處各紙共本件大統領  
領令ハ一面西班牙經由對獨伊輸出禁絶ヲ目的トシタルモノ  
ナルヘキモ屑鐵ヲ附加セルコトハ主トシテ日本ヲ目標トセ  
ルモノナルヘク何レニセヨ石油及屑鐵共日本ノ對米依存性  
ハ獨伊ニ比シ遙ニ大ナルヲ以テ本令ノ日本ニ對スル打撃ハ  
甚大ナルヘキコト(此ノ點ニ關シ華府發 I N S 「フイツツ  
モーリス」通信ハ對獨伊石油輸出ハ六月二十五日大藏省及  
海事委員會ノ「ガルフ」發西班牙向ケ米國籍「タンカー」

二隻ニ對スル出港禁止以來事實上差止メラレ居リタルコト  
ヲ附記シ居レリ)本令發出ノ動機ニ關シテハ華府消息通ノ  
間ニテハ右ハ日本ニ關スル限り新内閣ノ外交政策ニ對スル  
牽制策ト看做ス者多キモ他面今回ノ措置ハ緬甸「ルート」  
閉鎖ニ關スル日英協定ヘノ報復乃至對支激勵ノ意味モ含ム  
ヘク本令今後ノ運用ニ對シテハ當局ハ一切言明ヲ避ケ居ル  
モ二十五日海事委員會カ「タンカー」其ノ他米國籍船舶七  
隻ノ邦商ヘノ「チャーター」ヲ否認シツツ加奈陀、西印度  
諸島及浦潮向米船十五隻(蘇聯邦ハ「スタンダード」社油  
槽船 W. S. Miller ヲ備船セリト云フ)ノ外國商社ヘノ「チ  
ヤーター」ヲ認可セル旨發表セルハ注目ニ價スヘキコト等  
ヲ報シ居ルカ一方當地石油業者ノ態度ニ對シテハ未タ本  
令運用ノ範圍判明セサル爲何レモ突込ミタル批評ヲ避ケ居  
ルモ若シ石油製品ノ全面的禁輸等行ハルレハ加州石油業ニ  
對スル打撃モ相當大ナルヘシト爲シ政府ノ措置振ヲ懸念シ  
居ル旨報シ居レリ尙本令ニ關シ未タ格別ノ新聞論評出テ居

ラサルモ從來頻リニ屑鐵ノ對日禁輸ノ必要ヲ説キ來レル  
 「クロニクル」ハ二十六日ノ社説ニ於テ本件措置ハ事實上  
 石油及屑鐵ノ對日禁輸ニ等シク米國ハ之ニ依リ過去三年間  
 ノ矛盾セル極東政策ヲ清算シ得ヘシ云々ト論セリ  
 米、紐育ヘ轉電シ、市俄古、「ニユーオルレアンス」ヘ暗  
 送セリ



1427

昭和15年7月26日

在米國堀内大使より  
 松岡外務大臣宛(電報)

石油や屑鉄等への輸出許可制適用問題に関し

米國國務長官代理が事情説明について

ワシントン 7月26日後発  
 本 省 7月27日夜着

第一一六〇號

本使二十六日「ウエルズ」國務長官代理(ハル)長官ハ  
 「ハバナ」出張中ノ求メニ依リ會見シタル處「ウエ」ハ石  
 油、屑鐵等ニ輸出許可制ヲ適用スル問題ニ關シ昨日来新聞  
 ニ種々ノ報道現ハレ居ル處右ニ關シテハ目下適用品目ノ  
 「カテゴリー」等細目ヲ研究中ニテ未タ決定シ居ラサルモ

何等誤解ヲ避クル爲取急キ申上ケタキハ

(一)右ハ國防上必要ナル資材ノ輸出ニ付許可ヲ要スルコトト

シタルモノニシテ絶對禁止ニ非サルコト

(二)各國ニ適用スヘキモノニシテ決シテ日本其ノ他特定國ヲ

目標トスルモノニ非サルコト

ノ二點ナリト云ヘルニ付本使ヨリ然ラハ右等ノ細目ハ何時  
 頃決定ノ見込ナルヤト質セル所早ケレハ明日邊リ遅クモ來  
 週初頃迄ニハ決定ヲ見ルヘク其ノ上ハ更ニ詳シク御面談致  
 度キ積リナリト答ヘ次ニ本使ヨリ新聞ノ誤報ニ對シテハ何  
 等措置ヲ講セラルルヤト訊ネタルニ「ウエ」ハ右細目決定  
 ノ上自分ヨリ詳細新聞記者ニ説明スル考ヘナリト述ヘタリ  
 依テ本使ハ何レ詳細承リタル上ニテ更ニ所見ヲ述フルコト  
 ト致スヘキモ差當リ御訊ネシタキハ先般「バリー」次官補  
 ハ本使ニ對シ屑鐵ハ其ノ當時國內ニ充分ノ「ストック」ア  
 リ差向キ輸出制限ノ議ニ上リ居ラスト語ラレタルカ今回右  
 ヲ許可品目ニ加フルコトトシタルハ如何ナル事情ニ依ルヤ  
 ト訊ネタル處「ウエ」ハ右ハ専ラ國防上ノ必要ニ基クモノ  
 ナルモ何レ細目決定ノ上詳シク御話シ致スヘシト繰返シタ  
 ルニ付本使ヨリ日米兩國ノ國交ノ調整及貿易關係増進ノ問

題ハ日米兩國ノ從來希望シ來レル所ニシテ其ノ爲ニ東京ニ於テモ會談行ハレ來レル次第ナルカ今回ノ如ク突然ノ處置カ執ラルルニ於テハ日本側ニ面白カラサル反響ヲ及ホシ兩國國交調整ヲ困難ナラシムルコトヲ惧ルト云ヘルニ「ウエ」ハ兩國國交ノ調整ハ米國モ之ヲ希望シ居ル所ナルモ最近支那ニ於ケル事故及反米運動ノ如キハ國交調整ヲ困難ナラシメ居ル次第ナリトテ別電第一一六一號（見別電ラズ）ノ如キ應答ヲ重ネタル後更ニ本使ヨリ米政府ノ今回ノ措置ノ目的カ眞ニ先刻御話シノ通りトスルモ既ニ新聞報道ニ依リ面白カラサル印象ヲ日本側ニ與ヘ居リ今後實際上ノ取扱振り如何ニ依リテハ米ハ恰モ對日經濟壓迫ヲ行ナハントスルカ如キ感想ヲ生シ之カ爲ニ却テ日本トシテ之ニ對抗スル如キ强硬政策ヲ執ラサルヘカラストノ論議ヲ強ムルコトナリ米國側ノ希望スル國交調整ノ趣旨ニモ反スルコトナルヘシ就テハ米國政府ニ於テ對日輸出ノ取扱上深キ御考慮ヲ加ヘラレンコトヲ切望ス何レ詳クハ次回會見ノ際申述フヘキモ不取敢ノ感想トシテ是丈ヲ述ヘ置キ度シト附加シ置ケリ

北米各領事瑞西ヘ轉電セリ

瑞西ヨリ英、獨、伊ヘ轉電アリタシ

1428

昭和15年7月26日

在米國堀内大使ヨリ  
松岡外務大臣宛(電報)

石油製品・屑鉄等の輸出許可制実施に関する

米國大統領説明振りについて

ワシントン 7月26日後発

本省 7月27日後着

第一一六四號

大統領ハ二十六日ノ新聞會見ニ於テ石油及屑鐵等ノ輸出許可制實施ニ關シ質問ニ答ヘ

(一)新聞カ本件ヲ禁輸ト書立テ居ルハ間違ヒニシテ右ハ許可制ト爲セルニ過キス

(二)緬甸通路禁絶問題トハ無關係ナリ

(三)今ノ所日本側ヨリ抗議ヲ申込ミ來ルコトヲ聞キ居ラス

(四)飛行機用「ガソリン」ハ米國自身不足ナルカ故ニ之カ輸出差止ハ以前ヨリ考慮シ居リタルモノナリト述ヘタルカ

其ノ際政府トシテハ全部輸出差止ヲ考ヘ居ルモノニアラス如何ナル程度ノ制當量ヲ外國ニ許容スヘキヤニ付テハ目下研究中ナル旨ヲ特ニ附言セル趣ナリ

在米各領事ヘ暗送セリ

1429

昭和15年7月27日

在米国堀内大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

石油製品・屑鉄等の輸出許可制実施の背景に  
関する観測報告

ワシントン 7月27日前発

本省 7月27日夜着

第一一六九號(極秘)  
往電第一一五四號ニ關シ

今回米政府カ石油及屑鐵ヲ輸出許可制トセル動機ニ付テハ右措置ノ細目及之カ運用振リヲ見極メタル上ナラテハ確言シ得サルモ諸般ノ狀況及往電第一一六〇號本使ト「ウエルズ」トノ會談等ヲ綜合シ不取敢左ニ卑見稟申ス  
今回ノ措置ハ白堊館カ「イニシアチーブ」ヲ執リテ方策ヲ決定シ國務省ハ之ニ追隨シ居ルモノト見ルヘク(現ニ二十四日午後森島他用ニテ「ハミルトン」極東部長往訪ノ際本件報道ヲ引キテ質問セルニ「ハ」ハ全然承知シ居ラサル旨答ヘタル位ナリ)大統領ヲシテ突如本件措置ニ出テシメタル理由ヲ按スルニ米ノ國防豫算ノ飛躍的増大ニ鑑ミ多少自國軍需資材保存ノ必要モ起リシナランモ元來屑鐵石油共ニ

國內「ストツク」充分ニ存シ今慌テテ輸出ヲ差止ムル程切迫セル必要生シ居ルモノトハ認メラレサルノミナラス若シ眞ニ其ノ必要アリトセハ七月二日本件關稅法規公布ノ際當然他ノ重要軍需品ト共ニ許可物資中ニ包含セラルヘカリシモノト考ヘラルルニ付國防上及經濟上ノ理由ハ此ノ際當面ノ問題トスルニ足ラサルヘク結局對外政策上及大統領選舉對策上ノ考慮ニ出ツルモノト見ルノ外ナカルヘシ即チ第一ニハ將來ニ於ケル帝國動向ノ牽制及重慶ニ對スル聲援、第二ニハ獨伊牽制及英國聲援、第三ニ大統領選舉戰ヲ目當テトシテ政府ハ侵略國ニ對シ戰爭ニ至ラスシテ而モ有效ナル措置ヲ執リツツアルコトヲ國民ニ示サントノ意圖ニ出ツルモノト見ルヘシ換言セハ第一ノ點ハ帝國今後ノ動向ハ内閣更迭ヲ機トシ樞軸國家群ニ傾クノ可能性増大セリトノ觀察ヨリ豫メ之カ實現ヲ阻止シ併セテ蘭領印度等占領ノ如キ行動ニ出テサラシムル目的ヲ以テ今後ノ情勢ニ依リテハ米トシテ何時ニテモ我方ニ對シ經濟壓迫手段ヲ實施シ得ヘキ體制ヲ整ヘ置カントスルト共ニ他方佛印鐵道及緬甸通路禁絶ノ爲意氣沮喪ノ體ナル重慶ヲ鼓舞スルニ在リタルヘク其ノ間最近支那ニ頻發セル反米的出來事カ米官民ヲ刺戟シ居ル

コトモ看過シ得サルヘク此ノ點ニ付テハ「スチムソン」陸軍長官ノ對日強硬意見相當ニ大統領ヲ動カシ居ルモノカト存セラル

第二ノ獨伊牽制ニ關シテハ最近米ヨリ西班牙及葡萄牙ニ向ケ輸出セラレ結局獨伊ノ手ニ入ル石油及石油製品増加シ居ルニ鑑ミ(本年一月乃至五月ノ「ガソリン」ノ西班牙向ケ輸出ニ付見ルニ前年同期ニ比シ四割ヲ増シ滑潤油ハ二十四割ノ増加ヲ示シ居レリ)之等ヲ防止シ以テ英力強化ヲ企圖シ居ル歐洲大陸經濟封鎖ニ協力スルノ意嚮ヲ示シ以テ英ノ對獨伊戰意ノ高揚ヲ計ラントスルニ在リト見ラレ第三ノ選舉對策上ノ考慮ニ關シテハ從來政府ハ屢所謂「シヨウト、オブ、ウオア」ノ措置ヲ以テ侵略國ノ反省ヲ促スヘキコトヲ強調シ來リ且過般ノ民主黨全國大會ニ於テ採擇セラレタル政綱中ニモ侵略ヲ受ケ居ル國ニ對シ法律ト國防上ノ利益ヲ害セサル限り戰爭ニ至ラサル迄ノ總ユル援助ヲ與フヘキ旨掲ケアルニ鑑ミ政府トシテハ口ノミニテ被侵略國援助ヲ唱フルモ實行之二件ハストノ非難ヲ避ケ口上ノミニ非スシテ實行アル措置ヲ着々講シツツアルコトヲ國民ニ誇示シ以テ選舉民ヲ引付ケンコトヲ狙ヒタルモノト思考セラル

尙屑鐵及石油ノ内殊ニ後者ハ最近輸出不振ニテ當業者ハ困却シ居レル實狀既電ノ通りナルニ付今次ノ措置ニ依リ右困却ノ度ハ一層大スヘク米政府トシテハ之カ不平等ヲ宥ムル爲相當ノ措置ヲ講スルモノト觀測セラル

在米各領事、瑞西へ轉電セリ

瑞西ヨリ英、獨、伊へ轉電アリタシ



1430

昭和15年7月27日

在米国堀内大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

石油製品・屑鉄等の輸出許可制実施は政治的

動機に基づくものではないと國務長官代理説

明について

ワシントン 7月27日後発

本省 7月28日後着

第一一七八號(至急)

往電第一一六〇號ニ關シ

本使二十七日「ウエルズ」長官代理ノ求メニ依リ再ヒ往訪シタル處「ウエ」ハ既ニ昨夕發表セラレタル石油製品及屑鐵ノ輸出許可制實施ニ關スル大統領令及施行細則ヲ御承知

ノコトト思考スル處今回許可制ノ品目ニ加ヘラレタルハ石油製品 Tereachyd Lead 及屑鐵鋼ノ三品目ニ止マリ其ノ内石油製品ハ航空用ノ「ガソリン」及滑潤油(lubricant)ニ限定セラレ居リ之等ハ米國モ國防上自ラ貯藏スルノ必要ヲ感シ之カ輸出ニ許可ヲ要スルコトト爲シタルモノニシテ又屑鐵モ十五級ノ格附附中第一級ノ物ニ限ラレ右ハ軍需資材トシテ保存ヲ必要ト認メタルモノナリ右等以外ノ物ニハ重油ハ勿論揮發油及他ノ各種屑鐵ハ全然輸出自由ニシテ又右等ノ許可制品目ニ該當スル物ト雖箇々ノ問題トシテ輸出ノ許否ヲ決スルモノニシテ新聞等ニ傳ヘラレタル如ク何等政治的動機ニ基クモノニ非サルコトハ充分日本政府ニ於テ御了解アランコトヲ希望スト云ヘルニ付本使ハ昨日モ御尋ネシタル如ク屑鐵ノ如キハ數週間前ハ問題トナリ居ラサリシコトヲ「パリー」次官補ヨリ承知シ居タルニ今回ノ處置ヲ見ルニ到レルハ如何ナル理由ナリヤト反問シタル處「ウエ」ハ右等許可制品目ハ今回國防諮問委員會ニ於テ國防計畫遂行上必要ト認メタル結果今回ノ如キ決定ヲ見ルニ到レル次第ナリト答ヘタリ依テ本使ヨリ本問題ニ付テハ本國政府ノ所見ニ關シ未タ訓令ニ接シ居ラサルヲ以テ其ノ點ハ保留シ置クモ自

分一個ノ所見トシテハ昨日モ御話セル如ク米國內ニハ航空用「ガソリン」及屑鐵鋼ノ如キ極メテ豊富ナルコトハ一般ニ承知セラレ居ルニ拘ラス突然今回ノ處置ヲ採ラレ而モ新聞等ニハ恰モ主トシテ日本ヲ目標トスルモノナル如ク書キ立テ居ル爲日本ニ於テハ恰モ經濟的壓迫手段ト受取り面白カラサル反響ヲ生シ居ルヲ以テ今後關係品目輸出許可ノ取扱上特ニ深キ考慮ヲ加ヘラレ今回ノ處置カ何等政治的動機ニ出ツルモノニ非サルコトヲ實證セラレタシト重ネテ希望シタル處「ウエ」ハ其ノ點ハ充分了承セリト答ヘ尙今回ノ處置カ專ラ國防上ノ必要ニ出ツルモノナリトノ趣旨ハ昨日既ニ大統領ヨリ新聞會見中述ヘラレタルカ更ニ來週月曜ノ新聞會見ニ於テモ自分ヨリ右カ政治的理由ニ出ツルモノニ非ルコトヲ詳細説明スルコトト致スヘシト述ヘタリ次テ本使ヨリ大統領令ニ依レハ前記品目ニ對スル輸出許可制ハ八月一日ヨリ實施セラルル旨規定セラレ居ル處其ノ以前ニ契約濟ノ物ハ凡テ輸出自由ト解シ差支ナカルヘキヤト尋ネタル處「ウ」ハ夫レ等ノ點ハ自分モ充分承知シ居ラサルニ付「グリーン」軍需統制局長ヨリ説明セシムルコトト致度シト言ヘルニ付本使ハ何レ森島參事官ヲシテ「グ」ト細目ノ

點ニ付話合ハスヘキ旨ヲ陳ヘ置キタリ

瑞西ヘ轉電セリ

瑞西ヨリ英、獨、伊ヘ轉電アリタシ

在米各領事ヘ暗送セリ



1431

昭和15年7月27日

在米國堀内大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

### 石油製品・屑鉄等の輸出許可制実施に対する

### 措置振りにつき意見具申

ワシントン 7月27日後発

本省 7月28日夜着

第一一七九號(極秘)

往電第一一六〇號ニ關シ

二十六日發布セラレタル石油製品及屑鐵ノ輸出許可制實施

ニ關スル大統領令施行細則ニ規定セラレタル品目ノ内容及

二十六、七兩日本使「ウエルズ」會談ニ於ケル「ウエ」ノ

説明ニ徴スレハ石油製品ハ航空機用高「オクタン」價ノ

「ガソリン」及航空機用潤滑油ニ限定セラレ居リ又屑鐵鋼

ニ付テハ十五ノ格付キノ内第一級品ノミニ留マリ居ル次第

ニテ右等以外ノ石油及屑鐵ハ總テ輸出自由ナルヲ以テ許可  
制品目カ現在ノ範圍程度ニ留マラハ必スシモ日本ノミヲ目  
標トセルモノニアラストノ説明ハ一應理由アルヤニ考ヘラ  
ル處今後細目ノ改正ニ依リ輸出許可制品種ノ擴大ヲ計ラン  
トセハ其ノ餘地アル次第第二モ鑑ミ日米關係ノ成行ニ依リテ  
ハ是ヲ對日牽制ノ具ニ供シ得ルモノナルコト想察ニ難カラ  
ス「ウエルズ」ニ對シテハ本使ヨリ今回ノ措置カ對日影響  
ノ大ナル點及新聞報道振り等ニ鑑ミ日本ヲ主タル目標トス  
ルヤノ印象ヲ與ヘタルハ遺憾ナル點ヲ反覆強調シ米政府カ  
政治的意圖ヲ以テ右措置ヲ決シタリトノ疑惑ヲ一掃セント  
セハ本件輸出許可制ノ實際ノ運用ニ當リ充分ノ手心ヲ加ヘ  
以テ對日政治的意圖ニ出スルモノニアラサル所以ヲ實證ス  
ルノ要アル次第ヲ希望シ置キ「ウエ」モ其ノ點ハ充分了承  
セル旨ヲ答ヘ居ルニ付米政府カ八月一日以降本邦買付關係  
ノ分ニ對シ如何ナル取扱ヲナスヤハ今次措置ノ眞意ヲトス  
ル指標ト言フヘク依テ我方トシテハ差當リ右輸出許可ノ取  
扱ヲ嚴重ニ注視シ兎モ角買付契約濟ノ分ノ輸出ヲ圓滑ニ行  
ハシムル様交渉ヲ遂クルト共ニ今後買付クヘキ分ニ付テモ  
出來得ル限り多量ノ輸出許可ヲ取付クル様工作スル一方現

在輸出自由ナル物資中事態ノ發展ニ依リ輸出許可制品目ニ追加セラルル惧アル品種(原油、銅各種屑鐵等)ニ付テハ之カ獲得運輸ヲ急速ニ實行シ得ル様至急御手配相成ルコト本邦軍需資材供給ノ現階段ニ照ラシ得策ナルヤニ思考セラル而シテ萬一米政府側ノ取扱振非友誼的ニシテ前記「ウエ」ノ言明ヲ裏付ケ得サル如キコト明カトナリタル場合ハ我方トシテハ其ノ非友好的態度ヲ責メ日米國交調整ノ努力ヲ水泡ニ歸セシムル責任ハ米政府側ニアルコトヲ明カニシ報復的措置ヲ執ルノ餘儀ナキニ至レルコトヲ天下ニ闡明シ支那ニ於ケル米權益ヲ徹底的ニ締メ出シ又適當ノ方法アラハ蘭印及海峽植民地ヨリ米ニ供給セラレ居ル重要物資ノ輸出ヲ抑フル等ノ措置ヲ執リ以テ米ノ威嚇ニ屈セス却テ之ヲ反省セシムルノ覺悟ヲ固ムルヲ要スヘシ尤モ右ノ如キ最悪ノ段階ニ至ラサル過程ニ於テ我方新聞カ徒ニ強硬外交ヲ口ニシ必要ヲ超エテ輿論ヲ激化スルカ如キコトアラハ右ハ前記我方ニ有利ナル運用ヲ不可能ナラシムルノミナラス將來ニ於ケル日米國交ニ重大ナル影響ヲ及ホスヘキコト想像ニ難カラサルヘキニ付申ス迄モナキ儀乍ラ新聞指導ニハ特ニ意ヲ用ヒラルル様致度シ

英、伊へ轉電セリ  
伊ヨリ獨へ轉電アリタシ

1432

昭和15年7月29日  
在米國堀内大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

石油製品・屑鐵等の輸出許可制に関し軍需統  
制局長へ詳細照会について

ワシントン 7月29日後発  
本 省 7月30日後着

第一一八五號(至急)

往電第一一七一號末段ニ關シ

二十九日森島ヲシテ「グリーン」ヲ往訪セシメ

(一)先ツ森島ヨリ石油製品其ノ他ノ輸出許可追加ニ關スル

二十六日ノ大統領布告施行細則ニ掲ケラレ居ル品種中屑

鐵ハ第一級品重量溶解屑鐵(附)トノミ規定シアリ二十七日

「ウエルズ」長官代理ヨリ堀内大使ヘノ説明ニ依レハ右

ハ十五級ノ格付中第一級ノモノノミナリトノ趣ナルカ他

方米國屑鐵(附)研究所年鑑ノ分類ヲ見ルニ商務省ノ推薦シ

居ル標準格付ハ七十五級ノ多キニ上リ居ル處今次輸出許

可制ニ追加セラレタル第一級品ハ其ノ何レヲ指スモノナリヤト述ヘテ前記年鑑ヲ「グ」ニ示シ又屑鐵以外ノ品種ニ付テモ前記施行細則ニ掲ケラレ居ル名稱ノミニテハ明確ヲ缺クモノモアルヤニ思考セラルル所誤解ヲ避クル爲品種ヲ精細説明アリタシト述ヘタル處「グ」ハ屑鐵鑛(鋼)ニ付テハ<sup>?</sup>ノ商務省格付標準七十五級中ノ basic open-hearth furnaces 用ノ第一ノ種目ニ該當スルモノナリ(前記年鑑ニ掲ケラレ居ル右種目ノ屑鐵鑛(鋼)ノ内容規程別電第一一八六號(目録之)ノ通り)又屑鐵以外ノ品目ニ付テハ石油製品及「テトラエチル」鉛トモニ施行細則記載ノ種目ニテハツキリシ居リ別ニ品目標準ヲ有セサルモ業者ニ於テ誤解ヲ生スル虞ナシト思考ス唯石油製品ノ中「航空機用鑛(高カ)」「オクタン」カ「ガソリン」hydro carbon 又ハ hydro carbon mixture 三%ヲ商業的蒸溜ニ依リ分離シ得ル物質」ハ輸出許可ヲ要スル點ニ特ニ御留意アリタシト述ヘタリ

(二)<sup>(2)</sup>森島ヨリ本件大統領令布告ノ實施ハ八月一日以降トナリ居ルヲ以テ夫レ以前ノ既約品ハ輸出許可ノ申請ヲ要セス且現ニ商談中ノ品種ノ格付ヲ輸出許可制品種以外ノモノ

ニ變更スルコトハ差支ヘナキモノト解スル處如何ト問ヘルニ「グ」ハ八月一日以後ハ既約品タルト否トヲ問ハス輸出許可ヲ取付クルヲ要シ又許可制品種ニ引掛ルモノカ商談中ニ屬スル場合之ヲ他ノ輸出自由ナル品種ニ振替フルコトハ自由ナリト答ヘタリ

(三)森島ヨリ輸出許可制ハ何レノ國向ノモノニモ一律ニ適用アリトスルモ實際上ノ取扱上例ヘハ英國向ノモノト其ノ他ノ國向ノモノトノ間ニ差別待遇ヲ與フルノ結果トナルカ如キコトナリテハ甚タ遺憾ナリ右ノ外買付品輸送ノ爲船舶「チャーター」ノ場合海事委員會ニ於テ或國ニハ米船ノ「チャーター」ノ許可ヲ與ヘスト云フ如キ事態起ラハ右ハ輸出許可制ハ各國ニ一律ニ適用アリト稱スルモ事實上特定國ノミニ適用スルモノナリトノ非難ヲ免レサルヘシ現ニ米船ノ「チャーター」ヲ蘇聯ニハ許可シ本邦ニハ許可セザリシ事例(テカ)趣ノ報道モアリ實際ノ取扱ニ當リ差別的トナラサル様充分考慮アリタシト述ヘタル處「グ」ハ右ハ自分ノ所管事務以外ノコトナリトテ返答ヲ避ケタリ

(四)次イテ森島ヨリ過般工作機械ノ輸出差止實施ノ際手續其

ノ他ニ不便多ク事務敏活ヲ缺ケル様考ヘラルル處今次輸出許可制品目追加實施ニ當リテハ右様ノコトナキ様サレタシト希望シタル處「グ」ハ實ハ全然新タナル仕事ナリシ爲最初ハ事務遂行ノ機構モ早急ニ整備出來ス思フ様ニ取運ハサリシ次第ニ遺憾ナリト頻リニ陳辯シ居タル趣ナリ

在米各領事へ轉電セリ

1433

昭和15年7月31日  
在米国堀内大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

中国との治外法権撤廃交渉は承認している正統  
政府とのみ行つと國務長官代理説明について

ワシントン 7月31日後発  
本 省 7月31日後着

第一二〇一號

二十九日「ウエルズ」國務長官代理ハ新聞會見ニ於テ支那治外法権ニ關スル聲明(往電第一二二六號)ハ「チャーチル」ノ前顯ニ關スル聲明ノ翌日行ハレタル處目下米ノ支那ニ於テ有スル特權ハ日本ノ支配スル傀儡政府ノ治下ニ存ス

ルヲ以テ治外法権撤廃交渉ノ相手方モ自然右政府タルヘク從ツテ本件聲明ハ恰モ米カ後退セントシ居ルヤノ印象ヲ受クルカ如何トノ質問アリタルニ對シ米政府ハ其承認セル正當政府トノミ交渉スル方針ナリト答ヘ又右聲明ト緬甸「ルート」閉鎖問題トノ關係如何トノ質問ニ答ヘ緬甸「ルート」問題ニ關シテモ米ノ態度ニ何等變化ナシト述ヘタル趣キナリ

紐育へ郵送セリ

1434

昭和15年7月31日  
在米国堀内大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

航空機用燃料の輸出許可申請は西半球諸国のみに認めるとの運用方針を米政府発表について

ワシントン 7月31日後発  
本 省 8月1日後着

第一二〇七號(至急)

往電第一二〇六號ニ關シ  
白堊館發表ハ簡單ニシテ詳細ヲ盡シ難キモ右ハ本月二十六日ノ大統領布告施行細則ニ輸出許可制實施品目トシテ掲ケ

ラレ居ル石油製品中航空機關用燃料ノ内高「オクタン」價「ガソリン」ニ關シ政府ハ輸出許可申請ニ接スルモ西半球諸國(加奈陀ヲ含ム)向以外ノモノハ許可セサルヘシトノ運用方針ヲ明カニセルモノニシテ「ラテンアメリカ」諸國及加奈陀(加奈陀ヨリ英本國ニ向ケラルルモノハ差支ヘナキモノト思ハル)向ノ航空用「ガソリン」ハ申請アラハ輸出ヲ許可スル方針ト解セラル

尙米人所有ノ業務運營上必要ナル「ガソリン」ノ輸出ハ前記一般方針ノ例外トセラレ居ルヲ以テ歐洲及東亞方面ニ航空路ヲ有スル米國ノ航空會社カ營業上必要トスル「ガソリン」ハ西半球諸國以外ノ地域ニ於テ需要起ル場合ト雖之カ輸出ヲ許可スル方針ト見ラル  
在米各領事、瑞西ニ轉電セリ  
瑞西ヨリ英、獨、伊へ轉電アリタシ

1435

昭和15年7月31日

在米國堀内大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

石油製品・屑鉄等の輸出許可制がわが方輸出  
に及ぼす影響につき観測報告

第一二二二號(極秘)

往電第一二〇三號ニ關シ

石油製品及屑鐵ノ輸出許可制實施ノ本邦向輸出ニ及ホス影響等ニ關シ邦人側専門家ノ意見ヲ徵シタル一應ノ結果不取敢左ノ通り

一、屑鐵ニ關シテハ一九三九年ノ米國內消費量三千五百萬噸(前年二千百七十萬噸)輸出三百五十七萬噸(前年二百九十九萬噸)ノ内本邦ノ輸入二百七萬噸ナル處今次許可製品目ニ加ヘラレタル蒸溜熔解屑鐵鋼一九品ハ從來右本邦輸入屑鐵ノ約三分ノ一ヲ占メ居リ其ノ影響大ナル處米商務省推薦ノ屑鐵鋼格付表ニ依レハ本件一九品中ニハ或種ノ鐵道材料及軌條ヲモ含ミ居ルカ如キ曖昧ナル書振ノ箇所アリ(往電第一一八六號參照)一九品ノ定義ヲ廣範圍ニ解釋適用スル場合ハ我方ヘノ輸出ハ鮮カラサル困難ヲ生スヘク之ニ反シ鐵道材料等ハ別ノ等級ニ包含セシムトノ趣旨ノ解釋ヲ採ルモノトセハ輸出困難トナル部分ノ屑鐵ハ他ノ等級品ノ買付等ニ依リ相當程度代用セラレ得ヘ

ワシントン 7月31日後發  
本 省 8月1日夜着

シト見ラル

二、石油製品中航空用燃料ニ關シテハ〇、一%ノ「テトラエチル」鉛ヲ添加スルコトニ依リ「オクタン」價八十七ヲ超ユル「ガソリン」トナルモノ(原油ヲ含ム)及商業的蒸溜ニ依リ高「オクタン」價「ガソリン」三%以上ヲ分離シ得ル物資ハ總テ輸出許可制ヲ適用セラルル譯ナルニ付航空用「ガソリン」其ノモノハ勿論ノコト極微量ナリトモ高「オクタン」價「ガソリン」ヲ抽出シ得ル原油其ノ他ノ物資ハ許可ヲ得サレハ輸出シ得サルコトトナレル次第ニテ而モ之カ許可取付ハ實際上容易ナラサルヘキニ付我方ノ被ルヘキ打撃大ナリト見ラル又航空用「ガソリン」ニ關シテハ西半球諸國向ノモノ及米國航空會社ノ需要ニ充ツルモノ以外ハ輸出ヲ許可セサル方針ナルコト闡明セラレ居ルニ鑑ミ(往電第一二〇七號)之カ我方ヘノ取得ハ不可能トナレル次第ニシテ少クトモ右ニ關スル限り輸出許可制ニアラスシテ差別的輸出禁止ナリト言ハサルヲ得ス

尙最近一箇月間ニ我方カ買付ニ着手セル航空用「ガソリン」ノ量ハ大手筋ノ推算ニ依レハ八月末迄ニ船積ノ條件

ノモノ約百萬「バレル」ニ達スヘシトノコトニテ右註文カ一時ニ殺到セル爲業界ヲ相當刺戟シ且日本ハ何事カ新ナル軍事行動ヲ企圖シツツアリトノ印象ヲ米官邊ニ與ヘタルモノノ如ク右事情ハ今次米政府措置ヲ決意セシムルニ至レル動機ノ一ヲ爲シ居ルモノト思考セラル

壽府ヘ轉電セリ

壽府ヨリ英、獨、伊ヘ轉電アリタシ



1436

昭和15年8月3日

在米國堀内大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

**西半球諸国以外への航空機用燃料の實質的禁輸措置に関し米國國務次官へ抗議について**

ワシントン 8月3日後発

本省 8月4日後着

第一二二七號

「ハル」國務長官「ハバアナ」ヨリ歸來後會議等ノ爲急ニ會見ノ都合付カサリシ爲本使三日「ウエルズ」次官ヲ往訪シ訓令ニ依ル趣ヲ以テ客月三十一日ノ輸出管理官ノ聲明(往電第一二〇六號)ニ依リテ米大陸諸國以外向ケノ航空用

「ガソリン」ハ事實上輸出禁止トナリタル結果此ノ種「ガソリン」ヲ多量ニ輸入シ居ル日本ハ差別待遇ヲ受クルコトトナリ之ヨリ蒙ル影響鮮カラサル點ヲ指摘シ帝國政府ハ將來ノ措置ニ對スル一切ノ權利ヲ留保スルト共ニ右ニ對シ抗議スル旨ノ公文ヲ讀ミ上ケ之ヲ同次官ニ手交シタル上輸出許可制ニ關シテハ過般貴次官ヨリ説明ヲ受ケタル許リナルニ夫レヨリ幾何モ無ク航空用「ガソリン」ニ關シ輸出禁止ト同様ノ措置ヲ採ラレタルハ本使ノ諒解ニ苦シム所ニシテ右ハ日本ノ輿論ニ極メテ惡シキ影響ヲ與ヘ居リ本使ノ甚タ遺憾トスル所ナリト陳ヘタル處同次官ハ御申入レノ次第ハ篤ト研究考慮シ何分ノ御返事ヲ爲スヘキモ此ノ際一言申述ヘタキハ過日ノ説明ノ通り今回ノ措置ハ全ク國防上ノ必要ヨリ航空用「ガソリン」ヲ貯藏セムトスルモノニシテ米國トシテハ米大陸全體ヲ國防上考慮ニ容ルル必要アルハ御想像ニ難カラサルヘタ今回ノ措置モ何等他ニ政治的意圖無キコトヲ重ネテ確言シ得ルモノナリト答ヘタリ

次ニ本使ヨリ過日ノ貴次官ノ御説明ニ輸出許可制不能細則中ノ石油製品ノ種目ハ航空用「ガソリン」等ニ限ルノ趣旨ナリトノコトナリシカ其ノ後當方ニテ研究セル結果ニ依レ

ハ輸出許可制ノ適用ハ極メテ廣範圍ニ亘ルモノナリヤノ印象ヲ得居レリト言ヘル處同次官ハ過日申上ケタル如ク「ハイテスト」ノ航空用「ガソリン」カ問題ニシテ貴大使ノ右疑問ハ今後許可ノ實際取扱振リヲ見ラレハ自然氷解スルモノト信スト答ヘタリ仍テ本使ヨリ今後日本向ケ輸出ノ許可ニ對シ十分公正ナル取扱ヲ爲ス様重ネテ希望申入レ更ニ輸出監督官聲明中ノ航空用「ガソリン」ノ嚴密ナル定義ヲ尋ネ近ク之カ具體的ノ品名ヲ公ニセラルヘキヤト尋ネタルニ同次官ハ目下斯ル事ハ考ヘ居ラス右聲明ニテ盡サレ居レリ何レニスルモ右定義其ノ他輸出許可ノ取扱等ノ詳細ニ付テハ「グリーン」軍需統制局長ニ就キ御照會アリタシト述ヘタリ

瑞西へ轉電セリ

瑞西ヨリ英、獨、伊へ轉電アリタシ

在米各領事へ暗送セリ



1437

昭和15年8月3日

在米國堀内大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

石油製品の輸出許可制は実際には航空機用に

限らず極めて広汎な種目を包含する巧妙な規  
定が設定されている旨報告

ワシントン 8月3日後発

本 省 8月4日後着

第一二二八號

往電第一二二二號ニ關シ

石油製品ノ輸出許可制實施ニ關聯シ協議ヲ遂クル爲陸海軍  
武官泰羅海軍主計中佐川村燃料局技師及三井三菱淺野物産  
日商ノ四社ノ石油關係擔任者ヲ當館ニ招致シ技術的觀點ヨ  
リ檢討ヲ加ヘタル結果左ノ通り

一、航空用燃料ニ關シテハ(イ)通常ノ航空用ニ非サル「ガソリ  
ン」ト雖極ク少量ノ「テトラエチル」鹽(附々)ヲ添加セハ「オ  
クタン」價八十七ヲ超ユル性能ヲ得ヘキ「ガソリン」ノ  
外(ロ)之方原油ヲモ包含スルコトトナリ更ニ(ハ)製油工場ニ  
於ケル普通ノ蒸溜方法ニ依リ三「パーセント」以上ノ前  
記「ガソリン」等ヲ抽出シ得ル一切ノ物資ニモ輸出許可  
制適用セラルルコトニ規定セラレ居ルモノト解セラルル  
爲スル品種ノモノハ普通ノ「モーター」用ノ「ガソリ  
ン」ヲモ包含スル結果トナルヘキニ付舊ニ航空用「ガソ

リン」ニ止マラス自動車其ノ他ノ「モーター」ニ使用セ  
ラルル「ガソリン」及其ノ原油迄モ皆輸出許可制ニ引懸  
ルコトトナルヘシ

二、且重油?ニ關シテハ航空機用ノモノニ限定サレ居ルモ其ノ  
内容規定ヲ見ルニ航空機用トシテハ普通殆ント問題トナ  
ラサルカ如キ低キ粘度ノモノ(粘度八十五度以上ノモノ)  
迄モ包含セシムル趣旨ナルニ付結局航空機用ノモノノミ  
ナラス自動車等ノ「モーター」用ノモノニ付テモ許可制  
ニ引懸ルモノヲ生スヘシト解セラルル但シ原油ハ含マレ居  
ラス製品ノミニ適用アルモノナリ

三、敍上ノ如ク本件石油製品ノ種目規定ハ航空用ノモノノ名  
目ノ下ニ實際ニハ多少トモ之ニ關係アル他ノ種目ノモノ  
迄モ包含セラレ得ル様極メテ巧妙ニ作成セラレ居リ嚴密  
ニ適用セラルレハ拔道ヲ存セサルモノト認メラル

蘇、瑞西ヘ轉電セリ

瑞西ヨリ英、獨、伊ヘ轉電アリタシ

1438

昭和15年8月3日

在米國堀内大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

石油製品の輸出制限に対する現地対応方針に

ついで

ワシントン 8月3日後発

本省 8月4日後着

第一二二九號

今次米政府ノ實施セル主要物資輸出許可制ニ關スル我方對策トシテハ既ニ大體貴電第三九四號御垂示ノ方針通り措置ヲ講シ來リ殊ニ民間商社トノ協議聯絡等ニ意ヲ用ヒ工作機械及屑鐵ニアリテハ在米本邦商社側ヲ協議ニ加ヘ實質的ニ關係官民ノ委員會ト同様ノ效果ヲ舉ケ來レル處石油製品ニ關シテモ一日及二日ノ兩日ニ亘リ往電第一二二八號冒頭ニ掲ケタル通りノ關係官及民間商社代表當館ニ集合シ詳細ノ技術的檢討ヲ加ヘ且對策ノ打合ヲ遂ケタル次第ナルカ右協議ノ結果石油製品ニ關シテハ差當リ左記措置ヲ執ルコトニ打合セタリ(尙紐育、桑港等トモ相談ノ上輸出許可制ノ物資部門別ニ官民合同ノ對策委員會結成方考究中ナリ)

一、適用種目ノ許可範圍ニ付引續キ大使館側ヨリ國務省ノ意嚮ヲ確ムルコト(此ノ場合今次措置ニ依リ我方カ困却シ居ル如キ印象ヲ先方ニ與ヘス且先方ヲシテ却テ適用種目

ノ擴張解釋ニ導ク結果トナラサル様注意スルコト勿論ナリ)

二、在米本邦商社側ハ關係米國商社ヲ通シ許可方針及適用範圍ヲ具體的ニ探知スルト共ニ之等米國商社ヲシテ自發的ニ政府ニ對シ運動セシムル様仕向ケ結果ハ各地領事館ニテ取纏メ隨時大使館ニ聯絡スルコト

三、許可申請ノ許否決定ハ事務的ニモ尙相當ノ時日ヲ要スルモノト想像セラルルニ付期近ノ配船ニ對シテハ結局重油積込以外ハ困難ナルヤニ思考セラルルヲ以テ右事情ヲ考慮ニ入レ配船スルコト

本電内容ハ關係商<sup>(省)</sup>ノ外前記主要商社ヘモ御通報アリタシ(本電及往電第一二二八號極秘扱トセラレタシ)

北米各領事ニ轉電セリ

1439

昭和15年8月5日

在米國堀内大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

輸出許可制の適用範圍に關し國務次官の説明  
どおり限定的な範圍に止めるよう國務省係官  
へ注意喚起について

5 米国による対日制裁措置の強化

第一二四二號

往電第一二二七號ニ關シ

ワシントン 8月5日後發  
本 省 8月6日後發

六日森島軍需統制局長代理(グリーン)局長ハ休暇中)ヲ往訪シ今次輸出許可ヲ實施セル物資ノ中屑鐵ハ種目規程ハツキリシヤルモ航空用「ガソリン」ニ付テハ其適用範圍明確ヲ缺キ原油迄モ包含セラルル節アリ爲ニ本邦ノ關係業(者)ヨリ大使館ヘ質問殺到シ居ル處此ノ點ヲ明確ニ知ラシムル爲業者ヲ國務省ニ差遣シ説明ヲ求ムルコトトシタキ旨申入レタル處「ヨ」ハ右適用範圍ノ點ハ實ハ自分等ニモ判明シヲラス何レ兩三日中ニ適用種目ヲ更ニ詳細ニ規定シタルモノヲ發表スル手筈トナリ居ルニ付右迄御待願ヒ度ク其ノ上ニテ疑問ノ點アラハ日本業者ニ御目ニカカル様取計フヘシト答ヘタルニ付森島ヨリ過日堀内大使「ウエルズ」次官ニ會見ノ際ニモ同次官ヨリ輸出許可制適用種目ハ限ラレタルモノニシテ大統領布告施行細則ニ掲ケラレタル品目ニ付廣範圍ニ適用セントスル趣意ニ非ストノ趣旨ノ説明アリタルカ我方トシテハ實際ノ適用ニ當リテハ右説明ノ通限定

セラレタル範圍ニ止ムル様手心ヲ加ヘラルル事ヲ期待スルモノニシテ日本關係ノモノニ對シテ實際ノ適用振りニ付不満見出サレタル場合ハ日本ノ棉業者ハ或ハ米棉ノ買付ヲ停止スル等ノ措置ニ出ツルノ止ムナキニ至ルヤモ知レス又支那占據區域内ニ於テハ石油ノ問題ニ付テモ日本側トシテハ如何ナル措置ヲモ執リ得ル次第ナリトテ蒙疆石油專賣法ノ經緯等ヲ説明シ注意ヲ求メタル處「ヨ」ハ今次輸出許可制品目ノ追加ハ米國國防上ノ必要上航空用「ガソリン」ヲ保存セントスル外ニ他意ナク從テ適用品目モ廣範圍ニ抑ヘントスル意ナシ規則ハ廣ク解釋シ得ル様作ラレラルモ適用上行政的措置ニ於テ手心ヲ加フル積リト答ヘタル趣ナリ  
北米各領事ヘ轉電セリ

1440 昭和15年8月6日

松岡外相内奏資料付録「最近ノ日米會談錄要旨」

松岡大臣内奏資料附錄最近ノ日米會談錄要旨

(昭和十五年八月六日作成)

一、前任有田ニ於テ「グルー」大使ト六月十日以來數回ニ亘

リ會談致シマシタ

第一回ノ會談ニ於テ「グルー」大使ハ本國政府ノ訓令ニ依ルニ非ス、日米國交調整ヲ熱望スル自身自身ノ發意カラテアルト前置致シマシテ、日米間ニハ支那ニ於ケル米國權益侵害ノ調整ヨリモ重大ナ根本問題カアル。即チソレハ日本カ支那ニ於テ武力行使ヲ行ツテ居ルコトテアツテ米國政府及國民ハ、武力ヲ國策遂行ノ具ニ供スル國家トハ親善關係ヲ維持シ得ナイ立場ニアル。然シ米國ハ特ニ現下ノ世界狀勢ニ鑑ミ日本トノ親善關係回復ヲ希望スルモノテアルカラ、若シ日本カ國策遂行ノ手段トシテノ武力行使ヲ改ムルナラハ日米關係打開ノ途ハ自ラ開カルルテアラウト述ヘ、且米國政府ハ閉鎖經濟ヲ排シ通商自由ノ原則ヲ遵守スルモノテアル旨ヲ述ヘマシタ。右ニ對シマシテ有田ヨリソノ際日本ハ原則トシテハ米國政府ノ經濟方針ニハ同感テアル、日本ハ日泰條約對蘭印政策及ヒ天津問題解決等ニヨツテモ明カナ様ニ平和政策ヲ執ツテ居ル、又支那ニ於ケル米國權益ノ侵害等モ、大規模ノ戰鬪行為ニ附隨スル不可避ノ事件テアルカラ日米關係改善ノ上カラモ一日モ早ク事變終結ヲ希望シテ居ル旨ヲ述

ヘマスト共ニ、米國側ニ於テ何等カ日米關係打開ノ具體の方策カアツタラコレヲ考慮スルニ咨テナイ旨ヲ述ヘテ置キマシタ。

二、次テ有田ハ「グルー」大使ノ所述ヲ詳細檢討シタル上、六月十二日同大使ニ對シマシテ、支那ニ於ケル日本ノ武力行使ハ事變ノ眞因及實情ヲ見レハ明カナ様ニ決シテ國策遂行ノ手段テハナイ。從ツテ合理的條件サヘアレハ事變終結ノ用意カアルト前提シマシテ日米間ニ考究スヘキ問題トシテ、(イ)日本ノ經濟政策中閉鎖經濟ト見ラルル點カアレハソノ原因如何(ロ)事變終結後支那ニ於ケル閉鎖的措置殘存ノ有無及程度(ハ)蘭印ニ對スル我方針、日泰條約、天津問題解決等ハ日本ノ平和的意圖ヲ證スルモノニ非ルヤ(ニ)日米間ノ不安除去ノタメノ日米通商暫定協定締結ノ要否(ホ)米國側ノ援蔣行為ノ停止、支那再建設ニ對スル協力ノ餘地アリヤ(ヘ)東亞ノ新事態ヲ認識シ日米各々太平洋ニ於ケル分野ヲ守リ相提携シテ世界平和ニ貢獻スル可能性等ノ諸問題ヲ提起シタノテアリマス

三、其ノ後六月十九日ノ會談ニ於キマシテ「グルー」大使ハ本國政府ノ訓令ニ基キ、米國政府ハ右ノ如キ日本側提起

ノ具体的問題ノ審議ニ先ツテ兩國政府ノ根本政策、主義等ヲ研究スル必要カアルト考ヘテ居ルカ、米國政府ノ基本方策ハ主權、正義、法律及秩序ノ原則竝無差別待遇ヲ基礎トスル經濟的自由ノ通商政策テアルカラ右ノ點ニ付日米間ニ原則的一致ヲ見レハ日米兩國協力上多數ノ實際の方途カ自ラ開カルルテアラウトノ趣旨ヲ述ヘマシタ。

右ニ對シマシテ有田ヨリ何レ研究ノ上何分ノ回答ヲ致スヘキ旨答ヘテ置キマシタル處、米國政府ハコノ我方ノ回答ヲ俟タス、六月廿四日ニ至リマシテ「グルー」大使ヲ通シ、歐洲戰亂ノ波及防止ノタメ日米間ニ太平洋ニアル交戰國ノ領土及屬地ニ付テ平和手段以外ニ依リ現狀カ變更サレサルコトヲ希望スル旨ノ公文交換ヲ行フヘキコトヲ提議シテ參リ、且右米國ノ提案ハ、從來米國ノ執ツテ來タ特定問題ニ對スル態度ヲ變更スルモノテハナイカ、右提案カ實現ノ運ニ至レハ日米兩國間ノ他ノ諸問題解決ニ對シテモ寄與スルトコロカ多イテアラウト申出テテ來タノテアリマス。右ニ對シマシテ有田ヨリ差當リ右ノ提案ハ、從來話合中ノ問題ト切離シテ考慮スルコトハ不能テアルト述ヘテ置キマシタ

四、其後右米國側ノ提案ヲ慎重研究シマシタ結果、六月二十八日第四回ノ會談ニ於キマシテ有田ヨリ「グルー」大使ニ對シ、太平洋ニ於ケル交戰國ノ領土及屬地ノ地位ニ關シテハ、日本トシテ重大關心ヲ有スルトコロテアルカ、コレ等ノ地域ニ付テ中立國タル日米兩國間ニ今日約束ヲナスノハ日本ノ不介入方針ニモ反スルカラ、此際ハ太平洋ニ於ケル日米兩國間ノミノ問題ヲ考慮スルコトカ適當テアル旨ヲ述ヘ、同時ニ重ネテコノ問題ノ審議ハ去ル十二日米國側ニ通達シタ日本側提起ノ諸問題ト合併シテ審議スヘキモノト思考スルカラ之等ノ諸點ニ付テ米國側ノ見解ヲ承知シ度キ旨ヲ回答致シマシタ。

五、次テ七月十一日ノ會談ニ於キマシテ「グルー」大使ハ有田ニ對シ自分ノ在任中最モ満足ナシ且重要ト思考スル書物ヲ持參シタト前提致シマシテ、(イ)日米兩國トモ米洲及亞細亞大陸諸國トノ貿易ヲ重視スルカラ戰亂カコレ等地域ニ波及スルコトヲ防止スルコトハ日米兩國ノ共通利害問題テアル、(ロ)日米間ノ貿易ハ双方ニトツテ重要テアリ且相互補完的テアル、(ハ)米洲及亞細亞諸國中ニハ開發ノタメ資本ヲ必要トスルカ米國ハソノ資本ヲ有シテキル、(ニ)

蘭印ノ經濟ニ付イテハ米國ハコレヲ重視シテ、同地域ニ於ケル通商企業上ノ均等待遇ヲ希望スルモノテアルカラ、日本ノ對蘭印交渉ニ關シテ隨時情報ヲ受クルコトカ出來得レハ幸テアル、(※)太平洋ニ於ケル交戰國領土及屬領ノ現狀不變更ニ關スル米國側ノ提案ハ日本ノ通商上ノ利益トナルモノテアルカラ再考ヲ求メタイ、(ハ)日本ノ經濟政策、對支、對南洋政策ノ問題ヲ明確ニスルコトハ、日米間通商暫定協定締結ノ要件テアルカラ、日本政府ハ現在ソノ支那ニ行ツテ居ル如キ第三國ニ對スル通商制限ハ一時的ノモノテアルトノ聲明ヲ事實ニヨツテ證明サレタイ、(ト)對蔣援助ノ問題ニ付テハ米國政府ハ支那ノ統一ヲ實現スルニハ支那一般大衆ノ支持ヲ受ケル指導者ヲ承認スルヨリ外ニナイト考ヘテ居ル、(チ)米國ハ平和ノ手段ニヨリ、且總テノ關係國ノ權益ヲ尊重シツツ世界ノ孰レノ地域ニ於テモ秩序正義及安定ノ齎サレルコトヲ期待スルモノトアル、トノ趣旨ノ書物ヲ手交致シマスト共ニ、訓令執行ノ際ノ心得トシテ國務省カラ受ケタ電報テアルト申シマシテ、日本ハ間モナク(イ)一時的利益ヲ追ツテ、支那ニ於ケル商業及資源ヲ確保利用スルニ留マルヘキカ、或ハ永

久的利益ヲ目的トシテ自國及支那ノ經濟建設ノタメ他國ト協力シ技術資本等ヲ利用スルカ、又(ロ)武力ニヨル領土擴張策ヲ採ル國ト協調シ、占領地域ヲ貧困ニシ且資本技術ノ利用ヲ不可能ナラシメルカノ二ツノ問題ニ付テ決定ヲサナケレハナラナイテアラウトノ趣旨ヲ讀ミ上ケタノテアリマス。

六、松岡ハ七月廿六日外交團接見ノ際、「グルー」大使ト約三十分ニ亘ツテ會談致シマシタカ、ソノ際松岡ハ數年前「ジュネーブ」カラノ歸途「ルーズベルト」大統領ト會見シタコトハ明瞭ニ記憶シテキルト大統領ニ才傳ヘアリタイト前提シマシテ、松岡ノ生涯ノ目的ハ世界平和ノ建設テアルカ、恐ラク「ルーズヴェルト」大統領モ同様ノ考ヘヲ持ツテ居ラレルデアラウ、然シ世界平和ハ固定的ノモノテナク進歩發展スル環境ニ應スル新秩序ニヨツテノミ達成セラレルモノデアツテ、日本ハ米國カ右ノ意味ノ世界平和實現ノタメ協力セラルルコトヲ期待スル旨ヲ述ヘマシタ。コレニ對シ「グルー」大使ハ大体同感ノ意ヲ表シマシテ、「ハル」長官ニ傳言ハナイカト訊ネマシタノテ、松岡カラ日本國民ハ日米關係ニ重大關心ヲ持ツ

1441

昭和15年8月9日

在米国堀内大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

テキル、歴史上ノ先例ニヨレハ戦争ハ不信ト誤解カラ起  
ツタコトカ多イカ、假令日米間ニ戦争ヲセネハナラナク  
ナツテモ、誤解ノ下ニ戦フ愚ハ止メタイト申述ヘマシタ  
處、「グルー」大使ハ日米相戦フノ必要ハアルマイト申  
シマシタ。  
八月三日ニナリマシテ、「グルー」大使ハ右ノ松岡ノ  
「ルーズヴェルト」大統領宛傳言ニ對スル同大統領ノ回  
答ヲ傳達シテ參リマシタ。右回答ニ於キマシテ「ルーズ  
ヴェルト」大統領ハ世界平和ノ維持ニ對スル松岡ノ意見  
ニ満足ノ意ヲ表シマスト共ニ、恆久的の平和ハ關係各國ノ  
權益ヲ尊重シ各國ノ正當ナ希望ヲ満足セシメル平和手段  
ニ依ツテノミ達成スルコトカ可能テアルト思考スル、平  
和の手段ニ依ル現状變更ノミカ健全テアリ米國政府ノ認  
メル所テアル、今ヤ日米兩國指導者間ニ世界平和ニ對ス  
ル熱意カ存在スルコトハ、日米官民ノ關係ヲ改善スル建  
設的方策探究ノ機會ヲ與ヘルテアラウト述ヘテ居リマス。

國務長官代理が航空機用燃料の實質的禁輸措置  
に関するわが方抗議への回答および中国での米  
国關係諸事件に関する覚書を手交について

別電 昭和十五年八月九日發在米国堀内大使より松

岡外務大臣宛第一二七八号

右米国關係諸事件に関する覚書について

付記一 昭和十五年八月九日付

中国での米国關係諸事件に関する米国覚書

二 昭和十五年八月二十三日付

右覚書に対するわが方見解回答

ワシントン 8月9日後發

本 省 8月10日後着

第一二七七號(至急)

本使九日求メニ應シ「ウエルズ」國務長官代理(「ハル」長  
官ハ二十五日迄休暇ノ由)ト會見シタル處「ウエ」ハ先ツ  
「ガソリン」禁輸問題ニ關スル往電第一二二七號我方抗議  
ニ對スル回答文ヲ手交シタルヲ以テ一讀シタルニ米政府ト  
シテハ七月二十六日ノ大統領諭告中ニ述ヘアル如ク本件措  
置ハ國防上ノ利益ヨリ必要トスルモノナルヲ以テ何レノ外

國政府ヨリノ抗議モ之ヲ是認シ得サルモノ (unwarranted) ト思考スル旨ヲ簡單ニ記述シタルモノナルカ「ウエ」ハ本件ハ既ニ數回申述ヘタル如ク何等「モーラルエンバーク」ノ如キ政治的理由ナキ專ラ國防上ノ必要ニ基クモノナルニ付如何ニ友好關係ニ在ル國トノ間ニモ米ノ必要トスル航空用「ガソリン」ノ分量ニ關シ討議シ得サル次第ナルニ付テハ本問題ニ關シ此ノ上文書ノ往復ヲ繰返スコトハ兩國親善關係ニ寄與スル所ナカルヘキニ鑑ミ成ルヘク之ヲ避ケタキ旨附言シタルヲ以テ本使ハ帝國政府ハ右回答ニ對シ何等カ意見ヲ表示スルヤモ測ラレサルモ本使一個ノ感想ヲ述フレハ帝國政府トシテハ米國國防上ノ必要ヲ否認セントスルモノニハアラス米大陸以外ノ國ニ對シ事實上禁輸ヲ行ハントスル差別待遇ニ異議ヲ唱フルモノナリ若シ國防上航空用「ガソリン」ノ輸出ヲ制限スル必要アラハ何故ニ他ノ物資ト同様許可制ノ儘ニ爲シ置キ特別ノ必要ニ對シ特別ノ考慮ヲ加フル如キ仕組ト爲サスシテ全面的ノ禁止トセルヤ了解ニ苦シム所ナリト述ヘタル處「ウエ」ハ右ハ國防諮問委員會ニ於テ此ノ際此ノ種「ガソリン」ヲ直ニ大量ニ保存スルノ必要ヲ認メ且米大陸全體ニ對スル需給關係ヲ考慮スル

ノ必要ニ出テタル譯ナリト答ヘタリ

次ニ「ウエ」ヨリ別電第一二七八號ノ如キ在支諸懸案ニ關スル書物ヲ手交シタルヲ以テ本使之ヲ受領シタル後本問題ニ立返リ既ニ過日來數回ニ亘リ述ヘタル通り今回ノ輸出制限措置ハ當初來新聞等ニ依リ恰モ日本ヲ主タル目標トセル如ク傳ヘラレタル爲日本側ニ於テハ一種ノ對日經濟壓迫ナルカ如キ印象ヲ與ヘ是カ對抗手段トシテ種々ノ說モ唱ヘラレ朝野互ニ米側今後ノ取扱振ヲ深ク注目シ居ル實情ナリ過日來貴長官代理段々ノオ話ノ次第ハ逐一東京へ報告シアルモ今後成行如何ニ依リテハ日本ハ或ハ報復手段ヲ執ルヘシトノ論議更ニ勢ヲ増スコトトナルヘキヲ憂慮ス御承知ノ通り支那ニ於テハ帝國政府ハ蒙疆石油統制其ノ他種々ノ問題ニ關シ米側ノ利益ヲ充分考慮ニ容レ公正ナル取扱ヲ爲シ來レル次第ニシテ若シ今回ノ米側措置ノ結果兩國關係一層惡化ヲ見ルカ如キコトアラハ遺憾ナリ輸出許可實際ノ取扱ニ當リ充分公正ヲ期セラルル様セラレタシト述ヘタル處「ウエ」ハ自分トシテハ素ヨリ對日關係ノ好轉ヲ希望スルモノニシテ殊ニ個人トシテモ往年日本ニ數年間在勤シ日本ニ對シ特ニ親シミヲ感シ居ル次第ナルヲ以テ兩國關係調整ノ爲

最善ヲ盡シタキ考ナルカ最近支那ニ於テ諸事件頻發シ解決極メテ困難トナリ居ルハ遺憾ニシテ右ハ兩國關係改善ノ一ノ妨ヲ爲スモノナルニ付何トカ速ニ解決ヲ圖リタシト考ヘ居ル次第ナリ輸出許可制ノ實施ニ關シ萬一不公平ナル取扱アリト認メラルル事例アラハ何卒遠慮ナク自分迄才知ラセ願度ク然ラハ充分考慮スヘシト答ヘタリ

尙「ウエ」ハ新聞等ニハ本件日本ヨリノ抗議ニ對シ回答セリトノミ發表シ内容ハ全然述ヘサル積リナリ本件新聞等ニ書立テラルルハ兩國ノ利益ニアラスト考フルニ付貴方ニ於テモ同様ノ取扱トセラルル様希望スト述ヘタルニ付本使ハ之ヲ應諾シ置ケリ

在米各領事へ暗送セリ

壽府へ轉電セリ

壽府ヨリ英、獨へ轉電アリタシ

(別電)

ワシントン 8月9日後發

本省 8月10日後着

第一二七八號

本年六月末及七月中日本側後援ノ官憲ハ支那各地ニ於テ米國權益ニ不利益ナル新規ノ經濟規定及制限ヲ實施セラレ日米兩國人ヲ包含スル幾多ノ事件發生セリ右期間内ニ在留日本人ニ依ル集會及示威運動等米人ノ權益ヲ目當トスル運動繼續ノ二行ハレ且日本側新聞ニ依リ煽動ノ運動行ハルルト共ニ日本ニ於テモ内地在留米國人ノ福利安寧ニ關スル問題ヲ惹起セリ

上海ノ事態ハ特ニ重大性ヲ帶フルモノニシテ知名ノ米人及米國權益ニ對スル「テロ」行爲行ハレ國際取極ニ依リ設立セラレ居ル法廷ノ判事ハ暗殺セラレタリ日本ノ支配下ニ在ル新聞ハ平和及秩序ヲ攪亂スルカ如キ煽動的反米及反外運動ヲ爲シ來レリ

租界當局ハ其ノ直面セル困難ナル事態ニ處スル爲最善ヲ盡セルモ日本官憲ハ右煽動ノ運動ヲ抑制スル爲ノ手段ヲ講シタリトハ思ハレス

米國ハ國際取極及租界内ニ於ケル多數ノ居留民竝ニ其ノ財產竝ニ權益等ニ鑑ミ租界内ノ平和秩序及租界行政ニ關スル問題竝ニ合法的ニ構成セラルル政府施設ニ關聯スル諸問題殊ニ米國人ノ福利安寧ニ關シ特種ノ關心ヲ有ス

米國政府ハ或ル在支日本機關ニ依リテ行ハルル外國人統治下ニ在ル合法的統治機關及第三國人ニ對スル壓迫手段ナルカ如ク見ラルル各種ノ行爲ニ對シテハ重大ナル關心ヲ有スルモノナルカ日本政府カ此ノ種行爲ヲ寬恕シ居ルモノト信スルヲ好マス米國政府ハ米國及米國市民ノ利益ニ惡影響ヲ及ホスヘキ此ノ種行爲及其ノ經過ニ留意シ適當ナル考慮ヲ加ヘ居レリ(以下別電第一二七九號<sup>(附電ハズ)</sup>ノ諸案件ヲ詳細記述シ居レリ)

(付記一)

昭和十五年八月九日堀内「ウエルズ」會談ノ際「ウエルズ」次官ノ提出セル支那ニ於ケル米國關係諸事件ニ關スル覺書

At the end of June and during July of this year Japanese-sponsored authorities introduced in portions of China new economic measures and restrictions detrimental to American interests, and there occurred a series of incidents involving Japanese and American nationals. During this period there has been carried on

intermittently agitation directed against American interests which has taken the form of mass meetings and demonstrations by Japanese residents and an inflammatory press campaign in the Japanese-controlled press. There were also developments in Japan which have raised questions as to the welfare and security of American nationals residing in that country.

Developments at Shanghai have been of an especially serious character.

At that place, acts of terrorism have been committed against reputable American citizens and established American interests, as well as against other nationals and other interests, and a judge of one of the courts established by international agreement; to which the Government of the United States is a party, has been assassinated. Newspapers subject to Japanese control have been conducting an anti-American and anti-foreign campaign, the inflammatory character of which could not but affect prejudicially peace and order.

5 米国による対日制裁措置の強化

The authorities of the International Settlement have made every effort to deal with the realities of the difficult situation confronting them. There is, however, no indication that Japanese officials have used their undoubted influence in a way which would contribute to allay the agitation.

The United States has, by reason of international agreements to which it is a party and by reason of the large number of its nationals residing in the International Settlement and the considerable property and other interests possessed by its nationals there, an important concern in any development relating to questions of peace and order in the Settlement and to questions affecting the administration of the Settlement and of the duly constituted establishments of government, including courts, situated there. The United States has, of course, an especial concern for the welfare and security of American nationals.

The Government of the United States is deeply concerned over the various actions to which certain

Japanese agencies and instrumentalities in China appear to be resorting as a means of exerting pressure upon the duly constituted authorities of the foreign administered areas at Shanghai and upon the nationals of third powers. The Government of the United States is loath to believe that the Government of Japan condones these acts.

The Government of the United States has made due note of and is taking due account of those acts and developments which affect adversely interests of the United States and its nationals.

An illustrative <sup>(参考)</sup> list of recent restrictions and incidents is appended.

Department of State,

Washington, August 9, 1940.

(付録1)

昭和十五年八月二十三日堀内「ウエルズ」會談ノ際堀内  
大使ノ手交セル八月九日附國務省覺書ニ對スル我方ノ見  
解ヲ表明セル書キ物

With reference to the memorandum of the Department of State under date of August 9, 1940, dealing generally with developments in China and specifically to a series of incidents occurring in the Japanese occupied areas there during June and July of this year, involving American nationals and interests, observations are made as follows:

I.

The economic measures and restrictions now being enforced in portions of China under Japanese occupation are intended solely to establish economic integrity in the regions concerned and have been necessitated by the requirements of military operations. No discrimination whatever has been intended toward the United States or toward any third power.

The difficulties in obtaining permits for shipments by American firms out of Shanghai to the hinterland and the Yangtze Valley (either by rail or by boat) are attributable to the fact that the preparations for the opening of the Yangtze River to general traffic are not yet completed and

that, owing to the conditions prevailing along the route, railway facilities are not available to meet all demands. The further fact that military operations had to be launched as recently as July of this year in the upper Yangtze region may account for the difficulties.

In North China, exchange drawn on all exports and interport exports from that area are purchased by the Federal Reserve Bank of China, which makes 90% of the export exchange available to banks as "cover" for imports and interport imports. Thus a system of "linking" has been worked out between 90% of the export values and the total of import values. However, due to the recent introduction of non-exchange import measures, and the necessity of adjusting the distribution of the concentrated exchange of the Federal Reserve Bank of China among the exchange banks, it was made obligatory to obtain the prior approval of the Federal Reserve Bank of China for import and interport import shipments of all commodities, except food stuffs, within the limits of the above-mentioned export-

import linking system. The reasons for the adoption of the new measures may be summarized as follows:

(1) In order to prevent a food shortage such as occurred in North China last year, the North China authorities have found it necessary to appropriate for the importation of food stuffs the limited amount of available exchange. However, in order that the actual application of the measures should not obstruct the normal transaction of business, due consideration has been given to shipments already under contract. Essential commodities other than food stuffs are also accorded preferential treatment.

(2) Recently the trade of North China has shown an excess of imports over exports. This undesirable situation has been due in part to non-exchange imports effected by the illegal use of fapi, circulation of which is prohibited in North China. The authorities have had to adopt corrective measures for the stabilization of the financial and currency system.

The above-mentioned measures are not applicable to

imports from Japan and Manchoukuo. These exceptions, however, have not been made exclusively to benefit Japanese and Manchoukuoan concerns at the expense of nationals of third powers. The reasons why imports from Japan and Manchoukuo are not subject to these controls will be clear from the following facts:

(1) A common currency system prevails throughout Japan, Manchoukuo, and North China on the basis of parity between the yen and yuan. It is therefore only natural that there is a difference between the treatment accorded to Japan and Manchoukuo and that applied to third powers with a currency basis different from that of North China.

(2) Japan holds herself responsible for the maintenance of the value of bank notes issued by the Federal Reserve Bank of China. Therefore, in order to keep a sufficient supply of essential commodities and to maintain the value of Federal Reserve Bank notes, the import of an enormous amount of such commodities into North China is necessary. Such importation, however, has to be made

without impairing the exchange situation of North China. On account of the parity of currencies, imports from Japan and Manchoukuo do not affect the exchange situation, but imports from third powers must be placed under control.

In short, the trade and exchange restrictions have been adopted by the North China authorities only as an indispensable aid to establishment of economic integrity and of a sound currency system. As long as foreign exchange banks and foreign trade merchants operating in North China adjust themselves to the policies of the authorities in a true spirit of understanding and cooperation, there will be no difficulty in their obtaining the necessary permits, or in their conduct of business. It is therefore desired that the Government of the United States advise American business men in North China that to conduct their business in a manner suited to the special conditions of the region will best serve their own interests in the long run.

## II.

It is noted that the Department of State asserts that there have been "agitation directed against American interests which has taken the form of mass meetings and demonstrations by Japanese residents and an inflammatory press campaign in the Japanese-controlled press" in the Japanese occupied territories in China and similar developments in Japan "which have raised questions as to the welfare and security of American nationals residing in that country."

Investigations by Japanese authorities show that most of these incidents may be regarded as an aftermath of the arrest and rough treatment of Japanese gendarmes by United States marines. These incidents will automatically be solved when the gendarmes incident is brought to an amicable settlement. Others are of a sporadic nature occurring under circumstances peculiar to themselves. Incidents during the past months are either cases associated with the gendarmes incident or non-connected cases occurring at short intervals, but they should not be

construed as manifestations of a general anti-American movement under official Japanese auspices.

In connection with the case of the arrest and rough treatment of Japanese gendarmes by United States marines, it has been reported that the Japanese authorities have intentionally tried to capitalize the incident in order to stimulate anti-Americanism. This is an utterly false accusation. It is true that the Japanese press in Shanghai voiced a strong protest against the arrest and that Japanese civilian groups held mass meetings and denounced the action of the United States marines. However, such actions were entirely spontaneous and should not be taken as an attempt to create anti-American feeling. Natural resentment against maltreatment of members of the regular forces of the Army and a desire to obtain a speedy settlement of the incident were primarily responsible for those popular manifestations of feeling. Needless to say, neither newspaper editorials nor mass meetings have anything to do with the Japanese authorities

in Shanghai, who, in keeping with their established policy, maintained strict supervision over the activities of Japanese nationals.

It is essential that the gendarmes incident should be settled at the earliest possible moment. The State Department is understood to have sent instructions to the American authorities in China, vetoing the local settlement which had tentatively been reached. That step is much to be regretted, especially in that the instructions apparently failed to evaluate properly the circumstances under which the incident took place and disregarded a practical proposal by which the incident was about to be brought to an amicable settlement by the parties directly concerned. It is sincerely hoped that in situations of this kind the Department of State will follow a policy of recognizing local settlements reached on the spot by the highest military authorities of the two countries.

The order of expulsion from Shanghai of foreign press correspondents was aimed solely at those correspondents

who, under the cloak of Chinese language newspapers, have engaged in offensive propaganda against the Nanking regime, including some who have been in secret league with rebels and have been aiding them in conspiracies to over-throw the new regime. It was under such circumstances that Mayor Fu of Shanghai, presumably following the Nanking Government's instructions, sent a letter to the British and American consuls requesting them to see to it that these correspondents would leave Shanghai. The above step may be construed as a mere measure of self-protection.

### III.

"Terrorism" in Shanghai is no new phenomenon. At the outset of the present Sino-Japanese incident, Japanese were the victims of such terrorism, but since last year, violence has been directed largely against the followers of Wang Ching-wei. Terroristic violence was first resorted to by special agents of the Chungking regime, and statistics show that the victims among adherents of the Wang Ching-

wei regime out-number by far those of the Chungking elements. The inability on the part of the police authorities of the Settlement to counteract the terrorism of the Chungking agents in turn left room for retaliations by the adherents of Wang Ching-wei, who sought therein a form of self-protection.

Notwithstanding this obvious fact, the Settlement authorities and third power nationals, influenced by preconceived opinions, have closed their eyes to the violent measures of the Chungking agents, but have singled out for censure the reacting measures taken by supporters of Wang Ching-wei. It is interesting to note that while the assassination of Mo Shih-ying, publicity agent for Wang Ching-wei, on June 28, 1940, received little notice by the Settlement authorities or the Consular Body, the assassination three weeks latter of Samuel H. Chang, publisher of "The Shanghai Evening Post and Mercury," and the issuance of an order for the arrest of an enemy of the Wang Ching-wei regime last July, suddenly attracted

their attention to the extent of "terrorism" in Shanghai and caused them to clamor for measures to combat it. Be that as it may, one must recognize the fact that the Chungking regime is no longer in a position to maintain peace and order in the International Settlement and its vicinity and that the Nanking Government, with the support of the Japanese Army, is the only authority that can be responsible for the maintenance of order there. Nothing but candid recognition of the realities of the changed situation and support of a genuinely practicable system will be conducive to the firm establishment of peace and order in the Settlement.

Consul-General Miura's statement with reference to a resolution introduced before the meeting of the Shanghai Consular Body on July 25 in regard to terrorism is considered appropriate in the light of the actualities referred to above. He asserted that in order to maintain peace and order in Shanghai it is primarily imperative that all acts of terrorism committed by Chungking elements be

terminated. He further stated that any resolution of discussion dealing with terrorism which overlooks this basic point would be useless.

It is obvious that the Nanking Government cannot afford to tolerate acts of violence against its leaders, or any speech or discussion which seeks to repudiate the Government within its own jurisdiction. It must therefore be conceded that measures for the suppression of such seditious activities are within the purview of its right to defend itself against its enemies. So far as the Nanking Government is concerned, it is needless to add that seditious activities committed under the guise of an alien status or of the extra-territoriality of the Settlement cannot be tolerated.

#### IV.

With regard to the case of breaking into the apartment of Mr. Hallet Abend, Shanghai correspondent of the New York Times, by two hoodlums on July 20, and their seizure of Mr. Abend's manuscript, it seems that certain foreign

residents of that city entertain the idea that Japanese officials were behind this incident. However, investigation up to date has failed to establish any ground for the suspicion. Therefore, this incident, which is still under close investigation by the consular police, the Japanese military police, and the municipal police authorities, should be treated as an ordinary criminal case.

The taking of Mr. Relman Morin, Tokyo correspondent for the Associated Press, to the Tokyo gendarmerie headquarters on July 31 was for the investigation of the circumstances of his sending a press dispatch which glaringly contrasted with the official findings. It has transpired that his dispatch was based on information supplied by a member of the British Embassy in Tokyo which distorted the facts connected with the farewell note of Mr. Melville James Cox, correspondent in Tokyo for Reuters, who committed suicide on July 29. Mr. Morin's report asserted that Mr. Cox's farewell note was a forgery, a statement contrary to fact. On August 3, the

gendarmerie authorities presented the note to the British Consul-General and to the Chief of the Far Eastern Bureau of Reuters, at their request. They both agreed that the note was unmistakably in Mr. Cox's own handwriting.

#### V.

The foregoing statements will make clear:

(1) That the recent economic measures introduced by the North China authorities are designed to maintain economic integrity and to stabilize currency; they are not intended as a discrimination against the nationals of third powers; they are essential for the financial and economic welfare of the region, and as such deserve the compliance and cooperation of foreign business men.

(2) That difficulties involved in freight shipments to the hinterland and the Yangtze Valley are due to actual conditions in that area and the necessity for military operations.

(3) That recent series of incidents in Shanghai involving American nationals and interests are

5 米国による対日制裁措置の強化

spontaneous and natural manifestations, for the most part caused by the mistreatment of Japanese gendarmes by United States marines. These and similar incidents are sporadic and disconnected; it is erroneous to consider them as a systematic or supervised anti-American movement. Settlement of the gendarmes incident should be made by a compromise appropriate in the light of the actual circumstances, as suggested by the local authorities.

(4) That in view of the fact that terrorism in Shanghai originates in most cases in the acts of Chungking agents, it is essential for the maintenance of peace and order that they be removed from the city. It is also necessary to recognize that the Japanese army and the Nanking Government are conjointly the only power capable of maintaining order in Shanghai.

(5) That settlement of local incidents occurring in Japanese occupied areas in China will be possible only through negotiations with the local authorities, regardless of whether or not legal recognition is extended to the

central government.

In the light of the above-mentioned views and observations, it is ardently hoped that the Government of the United States will endeavor to solve its problems involving American interests in China by practical methods in keeping with actual realities in that part of the world.

August 23, 1940.

~~~~~

1442 昭和15年9月7日 在米国堀内大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

屑鉄禁輸措置を實行すべしとの論調が北部  
印進駐問題と結びつけられ大々的に報道され  
てゐる旨報告

ワシントン 9月7日後発  
本 省 9月8日前着

第一四三八號

七日諸新聞ハ國防諮問委員會ハ屑鐵<sup>○</sup>禁輸措置方ヲ大統領ニ  
建言スヘシトノ記事ヲ相當大キク掲載シ居ル處右ハ過般屑

鐵第一級品ノ輸出許可制設ケラレタルニ拘ラス層鐵ノ對日輸出依然繼續セラレ居レリトテ反日、援蔣諸團體ヲ始め一部新聞カ多大ノ不滿ヲ表シ居タル矢先佛印問題ニ關スル四日ノ「ハル」長官ノ聲明竝ニ我方カ之ヲ無視スルニ決セリトノ六日ノ東京電報等大々ノ掲載セラレ始メタル爲一般ニ佛印問題ニ關スル米ノ對日措置ト結ヒ附ケテ報道セラレ居リ尙本件國防諮問委員會ノ權限ハ國務省ノ希望ニ基クモノナリトノ風評モアル處同委員會係官ハ新聞記者ニ對シ右ヲ否定シ本件ハ専ラ國內軍需製産上ノ必要ニ基クモノナル旨述ヘ居ル趣ナリ

壽府へ轉電セリ

壽府ヨリ英、獨、伊、蘇へ轉電アリタシ

紐育へ暗送セリ

1443

昭和15年9月14日

松岡外務大臣より  
在米國堀内大使宛(電報)

上海での諸問題や仏印問題などをめぐり米國の對日態度が硬化している原因の究明方訓令

本省 9月14日後6時50分發

第四七〇號(極秘)

最近上海ニ於ケル憲兵問題竝ニ上海警備區域ノ問題、佛印問題等ニ關シ米國カ相當強硬ナル態度ヲ堅持シ上海警備區域問題ノ如キ場合ニ依リテハ我方ニ對スル政策ヲ一變スヘシト云フカ如キ威嚇ヲナシ居リ態度硬化シ居ルヤニ見受ケラルル處其ノ原因突止メ方ニ努力アリタシ尙最近新聞等ニ屢々報道ヲ見ル所ノ米加軍事協定及英米軍事基地租借協定類似ノ話合カ米濠及新西蘭間竝ニ太平洋英領ニ關シ英米間ニ成立シ居レリトノ風説ノ真相ヲ探查アリ度シ英、獨、加、「シドニー」ニ轉電セリ

1444

昭和15年9月22日

在米國堀内大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

米國の對日態度硬化の原因につき報告

ワシントン 9月22日後發  
本省 9月23日後着

第一五〇七號(極秘)

<sup>(1)</sup> 貴電第四七〇號前段ニ關シ(佛印、蘭印ニ關スル米國ノ「リアクション」探查)

一、最近ニ於ケル米ノ對日態度ニ關スル觀測ハ往電第一四〇〇號ヲ以テ略盡シ得タリト存スル處其ノ他米ヲシテ對日強硬態度ヲ取ルヲ得シメツアル諸情勢ヲ通觀スルニ米ハ最近米加共同防衛協定大西洋及「カリビア」海ノ英領根據地租借、英艦隊保全ノ確言取付ニ依リ東方ヲ固ムルト共ニ米艦隊ヲ太平洋ニ留メ對日牽制ノ姿勢ヲ維持シ又所謂兩洋艦隊ノ建造ニ着手シ「パナマ」附近島嶼ヲ始め濠洲「ニュージールランド」方面ノ根據地利用方ヲモ工作シ通商協定更新竝ニ輸出許可制ノ運用ヲ以テ蘇聯ヲ引惹ケ軍事外交兩面ノ態勢ヲ整フルト同時ニ我ニ對シテハ國防ノ必要ニ藉口シテ何時ニテモ軍需品輸出許可ヲ嚴重ト爲シ我弱點ヲ締メ上ケ得ル立場ニアリ他方護謨及錫ノ南米ヨリノ入手是等ノ人造方法節約方法ヲ研究シテ我方ノ取ルコトアルヘキ報復ニ備ヘツツアリ是等ノ情勢ハ米ヲシテ從來堅持シ來レル對日強硬態度ヲ維持シ是ヲ強化スルヲ得シムル素地ト爲シ居ルモノト觀テ可ナルヘシ

二、次ニ米カ右ノ如キ態度ニ出ツル最近ノ理由ヲ按スルニ米ハ極東ニ於テ英米勢力ト相容レサル立場ニアル日本ニ對シ獨ニ備フル見地ヨリ妥協ヲ試ミルモ右ハ却テ日本ヲ附

ケ上ラス結果トナルノミナラス斯卡ル妥協其ノモノカ直ニ英ノ勢力ヲ殺キ間接ニ獨ヲ利スルコトトナルノ矛盾ヲ想像シ又極東ニ於ケル日本ノ霸權ヲ認メ其ノ南進ヲ容易ナラシムル結果ヲ來シ支那ヲ助ケテ日本ノ制覇ヲ防カントスル九國條約以來ノ米ノ根本方針ヲ覆スモノト考ヘ居ル模様ナリ

尙<sup>(2)</sup>又英國勢力ノ天津上海ヨリノ後退、佛印及緬甸「ルー卜」ノ遮斷、支那沿岸封鎖ノ強化等米ノ不利トスル事態ノ頻發セル矢先日本軍ノ佛印進出、上海警備區域等ノ問題矢次早ニ生起シ來リ今ニシテ日本ヲ抑ヘサレハ取返シ付カサルニ至ルヘシト爲スハ米當局ノ考方ト觀測ス米側ニテハ他方我經濟實力ハ別トスルモ最近數十回ニ亘ル重慶空襲未タ蔣政權ニ致命的の打撃ヲ與フルニ至ラス而モ我方ノ事件解決ニ對スル焦慮ハ日ヲ追ツテ濃厚トナリツツアルニ反シ事變ハ益々長期化セントスル情勢ニアリト判斷シ此ノ際米ノ對日態度ヲ更ニ強化スルコトハ我予先ヲ緩和スルニ效果アルヘシト考ヘ居ルモノト認メラル

三、要之米ノ對日根本的立場ニハ何等ノ變化無ク英獨ノ戰況、日支事變ノ推移、更ニ大國防豫算ノ通過、徵兵法ノ成立

等國內體制ノ整備、國內輿論ノ動向(往電第一四五七號  
參照)等ヲ睨ミ合セタル結果最近ノ如キ出方ヲ爲シ居ル  
モノト觀察ス併シテ右ノ如キ傾向ハ獨ノ對英作戦急速ニ  
片付カス歐洲ノ事態膠着ノ状態ニ陥ルコトトモナラハ我  
方カ支那事變處理ヲ完遂シ事實ニ於テ米ヲシテ諦メシム  
ルカ如キ事態ヲ現出セサル限り我對獨政策及南方政策今  
後ノ進展ノ度合ニ比例シテ益々強化セラレ行クモノト覺  
悟セサルヘカラス

四、尙支那關係諸案件ニ關シテハ野村大臣當時ニアリテハ  
「グ」大使トノ間ニ數次ノ會談アリ米政府ニテモ日本側  
ニテハ現地解決ヲ促進シツツアリトノ感觸ヲ有シ居リ又  
有田大臣時代ニハ自主的立場ニ於テ解決ニ値スヘキモノ  
ヲ解決スルノ方針ヲ取ラレタル處右自主的立場ヨリスル  
解決方針ハ現内閣成立後ニ於テモ御變更無キ儀ト思考ス  
ルモ館員カ國務省員ト會談ノ際ニ得タル印象ヲ綜合スル  
ニ米政府ニ於テハ現内閣成立以來現地日本官憲ノ態度殊  
更ニ硬化シ現地解決困難ニ至レリト認メ居ルモノノ如シ  
壽府ヘ轉電セリ

壽府ヨリ英、獨ヘ轉電アリタシ

1445

昭和15年9月24日

在米國堀内大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

對日石油禁輸問題やビルマルト再開問題に

關する米國國務長官の記者談話について

ワシントン

發

本 省 9月24日 前着

特情華府第四二號

「ハル」國務長官ハ二十三日ノ定例會見ニ於テ佛印問題ニ  
關シ日本ノ行動ヲ非難スル言明ヲ行ツタ後コレニ關聯スル  
諸問題ニツキ更ニ記者團トノ間ニ左ノ如キ質問應答ヲ行ツ  
タ

對日石油禁輸問題

米政府部内ノ一部テハ石油ノ全面的對日禁輸ヲ斷行セント  
ノ意見カアルト傳ヘラレルカ如何トノ質問ニ對シ「ハル」  
長官ハ「政府トシテハ事態ノ凡ユル局面ヲ關心ヲ以テ注視  
シテキル」ト答ヘタノミテ斯カル措置カ現實ニ考慮サレテ  
キルカ否カニ關シテハ一切言明ヲ避ケタ

米「アジア」艦隊旗艦「オーガスタ」號カ近ク修繕ノ爲  
「シンガポール」ニ赴クトノ報道ニ關シテハ「余ハ未タ聞

イテ居ナイ」ト答ヘタカ更ニ記者側カラ「オーガスタ」  
號ノ「シンガポール」廻航ハ極東ニ於ケル基地ノ使用ニ關  
スル英國トノ諒解ヲ意味スルモノテアルカ」トノ質問カ出  
タノニ對シ次ノ如ク答ヘタ

「斯ル場合ニ必要ナ諒解ハ通常ソノ設備利用ヲ許容シ得ル  
現地當局トノ諒解ヲ以テ足ルノテアル」

「ビルマ、ルート」再開問題

更ニ「ハル」長官ハ「ロシアン」英大使トノ最近ノ會談ニ  
於テ特ニ「ビルマ」援蔣路再開ノ問題カ討議サレタカソノ  
質問ニ對シテハ確認ヲ避ケ米國ノ態度ハ日英取極メニヨツ  
テ「ビルマ、ルート」カ閉鎖サレタ當時聲明シタ時ト何等  
變化シテ居ナイトノミ語ツタ

對「タイ」國飛行機供給問題

最後ニ最近「タイ」國ト日本トノ緊密關係ニ鑑ミ米國ハ  
「タイ」國ニ對スル飛行機輸出許可制ニ變更ヲ加ヘル意嚮  
ヲ有スルカトノ質問ニ對シテハ「研究シテミル」ト答ヘタ  
因ミニ本年一月ヨリ八月迄ノ軍用機ノ「タイ」國宛輸出額  
ハ去ル二十一日ノ當局發表テハ總額四十六萬八千三百六十  
一弗(邦貨概算二百萬圓)ト報告サレテ居ル

1446

昭和15年9月26日  
在米國堀内大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

米國が屑鉄の西半球および英本國以外への輸

出禁止を發表した旨報告

ワシントン 9月26日後發

本 省 9月27日夜着

第一五五四號

一、十月十六日ヨリ屑鐵鋼各級品全部ニ付西半球及英本國ニ  
ノミ輸出ヲ許可スヘキ旨ノ大統領府發表「テキスト」

(華府特情)ハ米ノ國防上ノ必要ヲ理由トシテ舉ケ居ルモ  
二千五百萬弗對支借款供與ト共ニ我軍ノ佛印進駐ニ對應  
スル米政府ノ反日援蔣措置ノ第一歩タルコトニ間違ナク  
結局新聞モ亦右様解釋シ居レリ七月三十一日ノ航空用  
「ガソリン」禁輸カ西半球ノミヲ除外セルニ比シ今回ノ  
措置ハ英本國除外ヲ明示セルハ英米關係ノ進展振ヲ示唆  
スルモノト見ラル

二、今次借款ノ擔保トナリ居ル支那產「タングステン」ノ入  
手ニ付テハ支那未占領地ト外界トノ通路開放ヲ要シ十月  
十八日緬甸路遮斷滿期後之カ再開確保ヲ要シ英カ右貫徹

ノ爲必要トスヘキ援助ノ用意ヲモ整ヘタルモノナルヘク  
而シテ右對英援助ハ(一)禁輸範圍ノ擴大竝ニ(二)太平洋共同  
防備ノ形式ヲ採ルヘシト考ヘラル

三、貴電第四七〇號後段英米太平洋共同防備問題ニ關シテハ  
往電第一五五二號ハ相當真相ヲ傳ヘタルモノノ如ク要ス  
ルニ英米間ニハ米ニ依ル防備設備ノ強化米艦隊ノ港灣利  
用ニ付既ニ内面的ニハ原則的ニ了解ヲ遂ケ居ルモノト觀察  
シ誤ナカルヘク(具體的ノコトハ未タ海軍専門家ノ會談  
等ナキ模様ニ付未定ナルヘシ)南太平洋方面ニ於ケル英  
ノ勢力ヲ補フコトト成ルヘシト認メラル

壽府へ轉電セリ壽府ヨリ英、獨へ轉電アリタシ

1447 昭和15年10月2日 在米國堀内大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

米國が屑鉄禁輸に續ぎ生糸輸入禁止などを檢  
討中との米國紙報道報告

ワシントン 10月2日前発  
本 省 10月2日夜着

第一五八七號

客月二十九日華府發紐育「ヘラルド、トリビュン」特電  
ハ過般ノ屑鐵禁輸措置ニ對シ東京、伯林、羅馬ニ於テ現レ  
タル米國攻撃ノ言辭ニ刺戟サレ米ハ更ニ銅潤滑油金屬精製  
機械及化學製品ノ禁輸ノミナラス日本ノ對米爲替獲得ノ主  
タル手段タル生糸ニ對シ輸入禁止措置ヲ執ルコトアルヘシ  
生糸輸入禁止ヲ爲ス場合ニハ米ハ米洲諸國ニ對シテモ同様  
ノ措置ニ出ツルコトヲ慫慂スヘシト見ラレ居ルモ未タ何等  
官邊ヨリノ情報ハナキ旨ヲ報シ居レリ

1448 昭和15年10月8日 在米國堀内大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

米國の屑鉄禁輸措置に対し國務長官へ抗議申  
入れについて

付記一 昭和十五年十月八日作成、作成局課不明  
二 昭和十六年二月十日現在  
「對米外交ニ關スル試案」  
「米國ノ對日經濟措置及援蔣借款一覽表」

ワシントン 10月8日後発  
本 省 10月9日夜着

第一六一四號(極秘)

貴電第五〇五號ニ關シ(米國ニ於ケル屑鐵鋼對日許可制ニ關スル件)

八日國務長官ト會見本國政府ノ訓令ニ基ク旨ヲ告ケ右貴電(一)ノ趣旨ヲ認メタル公文ヲ手交シタル上補足的申入トシテ同(二)ノ趣旨ヲ豫メ用意セル書物ニ依リ陳述シ(先方ノ希望ニ應シ「オーラルステートメント」トシテ是モ殘シ置ケリ)タル處同長官ハ何レ精讀ノ上何分ノ御返事ヲ爲スヘキモ即座ノ感想ヲ述フレハ本件禁輸措置ハ

第一國防計畫ノ實行ニ伴フ軍需資材ノ國內需要増加ニ鑑ミ國內及米國ノ國防上緊密關係ニアル米大陸及英國ニ對スル供給ヲ確保セントスルモノナルカ第二ニハ昨年來日本側ニ於テ米國屢次ノ意見表示ヲ無視シ支那ニ於ケル武力占領ヲ擴大シ最近ニハ南洋方面ニ迄進出セラレ日本軍ノ佛印侵入ヲ見タル爲米國輿論ヲ刺戟シ屑鐵ノ對日輸出ハ日本ノ軍事行動ヲ事實上援助スルモノナリトノ非難ヲ高メ到底之カ禁輸ノ要望ヲ抑ヘ切レサルコトトナリタル次第ナリ右禁輸ハ前述以外ノ諸國ニ對シ一樣ニ適用サルルモノニシテ日本ノミヲ目標ト爲シ居ラサルニ日本側ニテ非友誼的行爲ト謂ハ

ルルハ當ラス米國トシテハ過去三年以上ニ亘リ支那ニ於テ日本側ヨリ多クノ權益ヲ侵サレ(昨日モ此ノ點ニ付「グルー」大使ヲシテ日本政府ヘ申入レシメタリ)時ニハ重大ナル損害ヲ蒙リ輿論モ大イニ激昂シタルコトアルモ未タ曾テ之ヲ非友誼的行動ナリトシテ申入レタルコト無シト述ヘタルニ付本使ハ先方ノ論旨ヲ一々反駁シ殊ニ日本カ屑鐵ノ主タル買付先ニシテ今回ノ禁輸カ日本ヲ目標トセルコトハ米國新聞ノ宣傳振ニ依リテモ明カナルコト昨年來ノ度重ナル禁輸ニ依リ日本ノ國民感情ノ昂揚セルハ極メテ自然ナルコト支那ニ於ケル經濟的制限等カ廣汎ナル軍事行動ニ伴フ一般の應急措置ニシテ決シテ米人ニ對スル差別待遇ニアラサルコト佛印ニ對スル我方ノ進出ハ佛側ノ同意ヲ以テ行ハレ之ヲ以テ武力侵入ト看做スノ誤レルコト等ヲ述ヘ置キタリ尙右會談中長官ハ最近ニ於ケル日米關係ノ惡化ニ對スル<sup>四</sup>□□<sub>字不明</sub>□□ヘ日本ヨリ新聞會見談トシテ種々ノ刺戟的言說傳ヘラレ米側輿論ヲ興奮セシメツアルコトヲ述ヘタルニ付本使ハ新聞報道中ニハ誤報モ多キコトヲ告ケ(「スミス」ノ例ヲ舉ケ)此ノ際爲政治家ハ冷靜ナル態度ト遠大ナル見識ヲ以テ日米國交ノ調整ヲ計ルヘキコトヲ力説シ置ケリ

(付記一)

對米外交ニ關スル試案

(昭和五、一〇、八)

一、今次三國同盟ノ結成ニ依リ

(イ)獨伊ハ大東亞ニ於ケル日本ノ指導ノ地位ヲ認メタリ

(ロ)重慶ニ對スル關係ニ於テ政治的ニ英米ニ對抗スル一勢力ヲ形成シ得ルコトトナリ更ニ對蘇國交調整ノ上ハ

(見込ハ相當確實ナリ)一段ノ強味ヲ加フヘシ

(ハ)日本カ汪政權ヲ承認スル場合伊、西ト共ニ今ヤ獨モ之

ヲ承認スルコト確實トナルヘキノミナラス「バルカ

ン」諸邦中ノアルモノモ右ニ追隨スヘキ見込モ生シ尙

佛モ承認ヲ與フル可能性アリト認メラル

(ニ)米國ニ對スル關係ニ於テ(ロ)實現ノ上ハ米ノ活動ハ米大

陸以外ニ於テハ困難トナルヘキノミナラス南洋問題ニ

付從來獨米側雙方トモ其ノ態度未決定ナリシニ反シ少

クトモ獨側ニ關スル限リ政治的ニハ解決ヲ見殘ル相手

ハ米(英)トナリタルモノト認メラル

(ホ)重慶ト米(英)トノ接近工作ハ少クトモ當分ハ愈活潑ト

ナルヘシ

二、米國ノ東洋ニ對スル主張及工作ヲ考フルニ

(イ)支那ノ獨立及領土ノ保全竝ニ通商ノ自由ニ關スル傳統

的主張ハ拋棄スルコトナシ

(ロ)南洋ニ付テハ政治的現狀維持ヲ主張スルト共ニ米ノ要

求スル國防資源ノ確保ヲ主張スヘシ

(ハ)東洋ニ於ケル自國領土ノ保全

(ニ)日本ヲ牽制スル爲ノ對蘇工作(事實上惧ルルニ當ラス

英ハ既ニ對蘇工作ヲ諦メツツアリ)

(ホ)英トノ協調ニ依リ重慶援助強化(「モーラル、サポー

ト」、借款、「ビルマルト」ノ再開)

(ヘ)太平洋防備ニ關スル英帝國トノ協調

(ト)蘭印ニ對スル資本主義的壓力

三、右ニ關スル日本ノ方針及施策トシテハ

(イ)支那ノ獨立及領土ノ尊重ニ付テハ日本ハ既定方針トシ

テ之ヲ實行スヘシ又支那ニ於ケル通商ノ自由ニ關シテ

モ原則トシテ故意ナル形式ヲ以テ之ヲ阻害スル意向ナ

シ但シ支那事變繼續中ハ一般的ニ第三國ノ權益ニ對シ

已ムヲ得サル壓迫加ハル結果トナル場合アリ

- (ロ) 南洋ニ付テハ日本ノ要求スル國防資源ノ確保、移民、通商ノ發展ヲ期待スルト共ニ南洋ニ對シ積極的ニ故ナク武力ヲ行使シ政治的現状ヲ破壊スル意向ナシ
- (ハ) 米國領土ニ對シテハ政治的ニハ無關心ナリ
- (ニ) 蘇聯ハ三國同盟陣營ニ誘致ス
- (ホ) 米ノ對支援助ニ付テハ直接ニ又ハ英ヲ通シテ間接ニ日本從來ノ主張ヲ強調スルト共ニ「ビルマ、ルート」ヲ爆撃ス
- (ヘ) 太平洋防備ニ付テハ三國同盟ノ本質ヲ説明シ警告、啓蒙ヲ加フ
- (ト) 蘭印トハ外交交渉ニ依ル經濟提携ヲ具現ス
- 四、外交交渉ニ依リ日米間ニ諒解ヲ遂ケ左ノ「ライン」ノ「メツセツチ」ヲ交換ス
  - (イ) 國家ノ近接關係ハ政治經濟ニ亘リ特殊ノ緊密ナル關係ヲ發生スルモノニシテ米ハ日支ノ一方カ他方ニ對シ第一三國ニ比シ特殊ノ地位ヲ有スルコトヲ容認ス
  - (ロ) 支那事變繼續中ハ政治經濟各方面ニ亘リ異常ナル事態ノ存在繼續スヘキモ日本ハ支那ノ獨立及領土ノ保全ヲ尊重シ且事變終結後ハ現ニ支那ニ於テ行ハレツツアル

戰鬪ニ基因スル通商障害ハ當然廢除セラルヘク日本ハ右ニ同意ナルモノト諒解ス(支那ノ貿易自主權ニ付テハ觸レサルヲ可トス)

(ハ) 日米ハ支那ノ獨立及主權ノ保全ニ關シ共同ノ關心ヲ有シ米ハ前項諒會<sup>(解)</sup>ノ下ニ日本ノ和平招來ニ關スル努力ニ對シ協力スルニ咨ナラス

(ニ) 南洋ノ資源ニ付日本ハ之ヲ獨占スル意向ナク又積極的武力行使ニ依リ南洋ノ現状維持ヲ破壊スル意思ナキモノト諒解ス右ニ付テハ米モ同様ナリ

(ホ) 米ハ支那及南洋ニ於ケル國防資源ノ獲得ニ關シ日本カ優先的ニ之ヲ需要スル地位ニ在ルヲ認ム但シ日本ハ米國ノ所要資源確保ニ對シ便宜ヲ供與スルモノナルコトヲ諒解ス

(付記二)

米國ノ對日經濟措置及援蔣借款一覽表

(昭和十六年二月十日現在)

(イ) 對日經濟措置

一、所謂「モーラル・エムバボー」ニ依ル對日禁輸品目

(1) 昭和十二年日本航空隊ノ南京爆撃以來米國政府ニ於テハ日本ノ行爲ヲ以テ「平和的業務ニ從事スル多數人民ノ居住スル廣大ナル地域ニ對シ一般の爆撃」ヲ行フモノナリトノ獨斷の見解ニ基キテ屢々之ヲ非難シ殊ニ昭和十二年九月二十八日及昭和十三年六月三日國務省ヨリ改メテ右ノ趣旨ヲ闡明セル次第アル處同昭和十三年六月十一日「ハル」國務長官ハ無防備地域空爆非難ノ國務省聲明ハ國內ニ於ケル航空機製造業者ニ對シテモ向ケラレタルモノニシテ右業者ニ對シテ無防備地域空爆國ニ向ケテノ爆撃機ノ輸出ニ付國務省力壓力ヲ加フヘキ旨ヲ仄シ同年七月一日米國軍需品統制局ヨリ航空機製造業者及同輸出業者ニ對スル通牒ヲ以テ航空機、航空機用武裝具、航空機用發動機、航空機部分品並附屬品及爆彈又ハ空中魚雷カ「空中ヨリ非戰鬪員攻撃ヲ行フ國」ニ向ケラレルニ付所謂「モーラル・エムバール」ヲ實施シ更ニ同年十二月二日大統領聲明ニ依リ同様ノ趣旨ヲ以テ航空機、同部分品及同製造用物資ニ關スル「モーラル・エムバール」ヲ強調セルヲ始メトシ客年七月二日軍需關係物資ノ輸出統制條項ヲ含ム

國防強化法ノ成立迄右趣旨ニ基キテノ如キ物資ノ對日「モーラル・エムバール」カ實施セラレタリ

(一) 航空機、同部分品及附屬品、爆彈、空中魚雷(昭和十三年七月一日以降)

(二) 航空機製造用物資(昭和十三年十二月二日以降、内「モリブデン」及「アルミニウム」ニ關シ昭和十四年十二月十五日改メテ之ヲ強調ス)

(三) 航空用「ガソリン」精製ノ設計、裝置、精製權又ハ技術的情報(昭和十四年十二月二十日以降、尙本品目ニハ國防上ノ理由ヲモ舉ケ居レリ)

(2) 客年六月一日國防上必要ナル大型特殊工作機械ノ對日積出力差押ヘラレ爾後多少ノ積出許可ヲ與ヘラレツツ同年七月五日以降ノ輸出許可制ノ實施ヲ迎ヘタル處同十一月頃迄ハ幾分積出許可アリタルモ爾後ハ許可ナク全ク禁輸同様ニナレリ尙客年十月十五日「ルーズヴェルト」大統領カ友好國ニハ工作機械ヲ輸出スルヲ妨ケス蘇聯亦友好國ナリト言明セルコト及實際ニ於テ工作機械ノ對蘇積出力許可セラレツツアル事實ニ付注意ヲ喚起スル要アリ尙其際同時ニ機械類、航空機「エンジン

## 5 米国による対日制裁措置の強化

ン」及部分品、「モーター」ノ積出モ抑止セラレタリ  
(3)昭和十三年末古船ノ對日輸出カ米國政府當局ニ依リ差  
抑ヘラレタリ

二、輸出許可制ノ實施ニ依ル對日禁輸品目

客年七月二日大統領ノ裁可ヲ經タル所謂國防強化法中ノ  
軍需關係物資輸出許可制條項ハ同日直チニソノ第一回ノ  
發動ヲ見爾後各種品目ニ擴張セラレ同法成立前所謂「モ  
ーラル・エムバーゴ」ヲ課セラレツツアリタル物資ヲ  
モ包含スルニ至リタル處ソノ許可不許可ノ裁定ニ當リテ  
ハ或ハソノ公布ト同時ニ對日禁輸ヲ明示セルモノアリソ  
レ以外ニ於テモ其ノ適用ノ始一二品目ニ付多少ノ許可ヲ  
見タルモノアル他今日ニ至リテハ全クソノ輸出ヲ許可セ  
ラルモノノタク要之名ハ國防上ノ必要ヲ理由トスル輸出  
許可制ト云フモ現在ニ於テハ事實上對日禁輸ヲ意味スル  
モノト言ハサルヘカラス今各種品目ニ付ソノ實施狀況ヲ  
見ルニ左ノ如シ

(1)第一回(客年七月二日公布同五日實施)

(一)一九三七年五月一日中立法施行細則ニ規定セル兵  
器、彈藥及軍用器材

(二)左記物資及之ヲ含有スル製品

「アルミニウム」、「アンチモニー」、石綿、「ク  
ローム」、棉花「リントース」、亞麻、黑鉛、皮革、  
工業用「ダイヤモンド」、「マンガン」、「マグネシ  
ウム」、「マニラ」麻、水銀、雲母、「モリブデン」、  
光學硝子、「プラチナ」類、石英結晶、「キニー  
ネ」、護謄、絹、錫、「トルオール」、「タンゲステ  
ン」、「ヴァナジウム」、羊毛

(三)左記化學製品

「アンモニヤ」及同化合物、鹽素、「ヂメチールア  
ニリン」、「ヂフェニールアミン」、硝酸、硝酸鹽、  
「ニトロセルローズ」(十二「パーセント」以下ノ  
窒素ヲ含ムモノ)、曹達石灰、無水醋酸鹽、「スト  
ロンチウム」、發煙性藥品硫酸

(四)左記製品

前掲中立法武器輸出許可制施行細則ニ規定セラレ  
居ル以外ノ航空機、其ノ部分品及其ノ附屬品、同  
装甲板、防弾性硝子、透明「プラスチック」、砲  
火操作作用及航空機裝備用等ノ光學器具

(5)左記工作機械

熔解又ハ鑄造用、「プレス」用、切削又ハ研磨(動力ニ依ルモノ)用、及鍛接用ノ各種金屬工作機械

註、以上ノ品目中ニハ例ヘハ「モリブデン」

「アルミニウム」等ノ如ク許可制施行前

前述セル如ク既ニ「非戦闘員爆撃國」トシ

テ對日「モラル・エムバーゴ」ヲ課セ

ラレタルモノアリ又米國軍部方面ノ要望ニ

依リ國防上ノ理由ヲ以テ「モラル・エム

バーゴ」ノ實施セラレタルモノ少ナカラ

サリシ處本輸出許可制ノ實施後ハ工作機械

ニ付テハ客年十一月頃迄又「ヴァナジュー

ム」ニ付テハ同九月頃迄許可アリタル他今

日ニ於テハ全種目トモ全ク對日禁輸同様ト

ナレリ

(2)第二回(客年七月二十六日公布同八月一日實施)

(一)航空用燃料

註、航空用「ガソリン」ニ付テハ公布直後七月三

十一日ノ白聖館聲明ニ依リソノ輸出許可ハ西

半球向ケ及他ノ地域ニ於ケル米國商社用ノモノノミニ與ヘラルルコトナレリ

(二)航空用潤滑油

(三)「テトラエチール」鉛

(四)屑鐵鋼第一級品

(3)第三回(客年九月十二日公布同日實施)

(一)航空用燃料精製裝置、ソノ考案構造竝ニ操作ニ關

スル設計規畫及記述書類

(二)「テトラエチール」鉛製造裝置、ソノ考案構造竝

ニ操作ニ關スル設計規畫及記述書類

(三)航空機若クハ航空機用發動機ノ考案又ハ構造ニ關

スル設計、規畫及記述書類又ハ技術の情報

(4)第四回(客年九月三十日公布同十月十五日實施)

軍用光學機械類

(5)第五回(客年九月二十六日聲明同三十日公布同十月

十六日實施)

屑鐵鋼全部

註、曩ニ屑鐵鋼第一級品ニ付輸出許可制ノ適用ア

リタル處本回ノ實施ニ依リ右第一級品ヲモ含

メ屑鐵鋼全部ニ付許可制ノ適用アリ且西半球及英本國向ケノミ輸出ヲ許可セラルルコトトナリタル結果茲ニ屑鐵鋼ノ對日禁輸ヲ見ルニ至レリ

(6) 第六回(客年十二月四日公布同十日實施)

客年七月第一回ノ輸出許可制適用ノ際除外サレタル四十種ノ工作機械類及中古又ハ改造サレタル一切ノ工作機械類

註、本件公布ニ當リ「マクスウエル」輸出統制官

ハ今回ノ措置ハ單ナル國防上ノ必要ヨリ出テタルモノナルモ非友好國ヘノ禁輸モナシ得ルコトトナレリト言明セル趣ナリ

(7) 第七回(客年十二月十日公布同三十日實施)

鐵鑛、銑鐵、鐵合金、一定ノ鐵鋼製品及同半成品

註、右品目ニ付テハ英本國及西半球諸國ノミ許可

カ與ヘラルルコトトナレリ

(8) 第八回(客年十二月二十一日公布本年一月六日實施)

臭素、「エチレン」、「エチレン・ヂプロマイド」、「メチルアミン」、「ストロンチウム」金屬及鑛石、

「コバルト」、研磨材、可塑物塑製機及壓搾機、測定機、計量器、試験器、平衡器、水壓「ポンプ」、工業用「ダイヤモンド」ヲ含ム工具、航空用潤滑油製造ニ關スル装置及設計

(9) 第九回(本年一月十日公布同二月三日實施)

銅、青銅、亞鉛、「ニツケル」、眞鍮、苛性加里

(10) 第十回(本年二月五日公布、同十日實施)

鑿井機並精油機、「ラヂウム」、「ウラニウム」、犢皮及仔山羊皮

(□) 援蔣借款

一、第一回

發表 昭和十三年十二月十五日

金額 華府輸出入銀行ヲ通シ二千五百萬弗

二、第二回

發表 昭和十五年三月七日

金額 華府輸出入銀行ヲ通シ二千萬弗

三、第三回

發表 昭和十五年九月二十五日

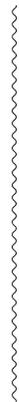
金額 華府輸出入銀行ヲ通シ二千五百萬弗

四、第四回

發表 昭和十五年十一月三十日

金額 (1)華府輸出入銀行ヲ通シ五千萬弗

(2)爲替安定資金中ヨリ五千萬弗



1449

昭和16年3月9日

在米國野村大使より  
松岡外務大臣宛(電報)

東亞新秩序構想の趣旨が不明確で米国人に理

解されない点が日米関係の最難関であるなど

ハワード内話について

ワシントン 3月9日後発

本省 3月10日前着

第一三四號

五日紐育ニテ若杉カ「ロイ・ハワード」ト會談ノ際「ハ」

ノ談話ノ要旨左ノ通り御參考迄

一、「ハ」ハ先般大臣ノ懇切ナル招待ニ應シ能ハサリシ理由

トシテ旅程ノ都合及不利ニ陥リタル親友「ウイルク」

選舉應援ノ爲至急歸米ノ必要アリシコトヲ縷々釋明セリ

但シ目下討議中ノ對英援助法案決定ノ上ハ近々更ニ極東

旅行ヲ考慮中ナル由

二、「ハ」ハ蘭貢ヨリ重慶香港ニ飛行シ重慶ニ於テハ蔣介石

其ノ他ノ要人ト會見セルカ蔣ハ以前ヨリモ若ク見エル程

元氣ニテ要人等ノ抗日戰意モ益々固マリ「ハ」ハ蔣ニ對

シ日本ノ希望スル蘇聯ト北支ノ間ニ防共的緩衝地帶ヲ設

クルコト支那ニ於ケル排日行爲ノ禁止、經濟開發ノ協力

ヲ容認シテ妥協スル意思ナキヤト問ヘルニ對シ蔣ノ返答

ハ此處ニ其ノ文句ヲ「クオート」スル譯ニ行カサルモ要

スルニ日本カ既ニ汪精衛ヲ擁立シテ南京政府ヲ樹立セル

以上妥協平和ノ望ナシトノ趣旨ヲ答ヘタル由

三、日支事變收拾ニ付米大統領ノ調停可能性如何ノ問題ニ付

テハ「ハ」ハ日本カ支那ノ獨立ヲ尊重シ「ノン・アゲレ

ツシヨン」ノ保障ヲ與フルニ於テハ可能性アリト信スト

言ヘリ(此ノ點過般北京ニ於テ若杉カ燕京大學々長「ス

チュワート」ト會談ノ際同人ノ意見モ同様ナリシ由)

四、「ハ」ハ大臣ヲ良ク知り「松岡ハ「リアリスチック」ノ

政見ヲ有シ日米戰爭ハ勝敗孰レニ決スルモ結局兩國トモ

損失ノミニテ利益ナキコトヲ知悉シ居ルヲ以テ此ノ信念

ハ兩國間平和ノ一保障ナリ」ト語り過日支那ヨリ歸來ノ

節「ル」大統領ニモ「リアリスチック」ナル松岡ノ人物ヲ話シ置キタル旨内話セリ

五、「ハ」ハ日米關係ノ最難關ハ日本ノ企圖スル「東亞新秩序」ノ真相不明ナル點ニアリ米人ハ日本側ノ説明如何ニ拘ラス之ヲ以テ日本ハ東亞ニ於テ他國トノ條約及他國ノ意思ヲ無視シ獨斷ニテ自己ノ欲スル所ヲ武力ヲ以テ遂行スルモノナリト爲シ殊ニ獨伊トノ三國同盟以後ハ獨伊ノ遣方ニ徴シ益々右ノ觀念ヲ強メタル次第ニテ米國モ既往ニ於テハ「ニカラグア」墨西哥玖馬等ノ隣國ニ對シ武力ヲ行使シタルコトアルモ其ノ後次第ニ之等ノ隣國ニ對シテモ其ノ非ヲ是正シ協調ニ努メ來リ現在ニ於テハ専心他國トノ協約及國際法ニ基キ世界ノ秩序ヲ維持セントスルノ政策ヲ固持シ居ルヲ以テ右ノ如キ日本勝手ノ新秩序ハ正面ヨリ米國ノ企圖スル文明秩序ヲ破壊スルモノニシテ到底兩者相容レサルモノト爲スニ一致シ居ルヲ以テ此ノ根本的相異點ヲ緩和スル爲大臣邊リヨリ日本ノ眞意カ平和的且經濟的目的ニ外ナラスシテ政治的又ハ軍事の「ドミネーション」ヲ企圖スルモノニアラサル義ヲ機ニ觸レ幾度モ繰返シ放送サルコト有利ナルヘシト語レリ

六、尙日本ハ宣傳ヲ誤リ事變ノ説明ニ重キヲ置クモ何等其ノ效無シ寧ロ國際知識ニ貧シキ米人カ獨裁國タル支那ヲ「デモクラシー」ト誤信シ(共產黨系米人カ獨蘇不侵條約締結前途ハ蘇聯迄モ「デモクラシー」ト稱シ居リタルト好一對ナリト附言セリ)却テ實質上「デモクラシー」ニ等シキ日本ヲ「トータリアン」國家群ノ一トシテ敵視スルノ迷想ヲ打破スル宣傳ヲ強化スルコト肝要ナリト助言セリ

紐育へ暗送セリ

1450

昭和16年5月30日

在漢口田中総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

在華米国人の財産登記を七月一日までに完了  
するよう米國國務省が訓令したとの情報報告

漢口 5月30日後発  
本省 5月30日夜着

第一八二號

當館課者ノ米國總領事館ヨリ入手セル情報ニ依レハ在重慶米國大使ヨリ全支米國領事宛大要左ノ如キ電訓ヲ發セル趣

ナリ

國務省發令ニ依リ在支米國市民ノ第二次登記ヲ七月一日迄ニ完了スルコトヲ訓令ス右第三國側ニ極祕裡ニ取行ハレタク尙登記完了者ノ在支財産處分ニ付テハ總ユル便宜ヲ供與セラルヘシ

上海、南大、北京、天津へ轉電セリ

香港へ轉電アリタシ

1451 昭和16年6月2日

在上海堀内総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

米國空軍兵士の重慶軍参加に関するUP通信  
の報道と重慶側反響につき報告

上海 6月2日後発

本省 6月2日夜着

第八九四號

華府官邊筋ヨリ得タル所ナリトテ米國陸軍ハ今般空軍ノ支那軍参加ヲ強要シ既ニ多數ノ飛行士ハ渡支ノ途ニアリトノ三十一日華府發「ユーピー」ハ一日當地各英字紙ニ大キク報道セラレ注目ヲ惹キタルカ右ニ對スル重慶側反響トシテ

一般ハ右報道ニ深甚ナル満足ノ意ヲ表シ右ハ米ノ對支援助政策ノ最モ斷乎タル證明ニシテ之ニ依リ最近ニ於ケル米國ノ極東政策ニ對スル多少ノ懸念モ一掃セラレタル感アリトノ三十一日重慶「ユーピー」ハ一日「チャイナプレス」ニ前記華府「ユーピー」ト竝ヒ目立テ報道セラレタリ

三、二日「チャイナプレス」ハ本件ニ關シ社説ヲ掲ケ從來米國空軍飛行士ハ他國空軍ニ参加スルコトヲ強要セラレサリシ事實ニ鑑ミ今次措置ハ米政府態度ノ重大ナル變化ト見ルヘク之等米人飛行士來支ノ上ハ本年末迄ニ米支飛行士ニ依ル日本ノ經濟都市爆撃ノ可能性ナシトセス斯テ日本壊滅スルヲ得ハ民主國家ニ取り大ナル利益トナルヘキ處逆ニ四ケ年ノ日本ノ攻撃絶エシ支那ノ前途ハ益々有望トナレリト論評シ居レリ

三、一日華府發路透ハ米國陸海軍省側ニテ本件批判言明ヲ避ケタル旨ヲ報シ居レリ

北京、南大、天津、漢口、香港へ轉電セリ

1452 昭和16年6月3日

在上海堀内総領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

中国の平和回復後に治外法権を撤廃する用意があるとの米国声明への反響について

上海 6月3日後発

本省 6月3日後着

第九〇六號

「ハル」長官カ米國ハ支那ニ平和回復後治外法權撤廢ノ用意アリトノ聲明ヲ發シ且本件ニ關シ郭泰祺トノ交換文書ヲ公表セル趣ハ一日華府發「ユーピー」ニ依リ又右ニ關スル米國內ノ反響トシテ米國ハ支那ニ於ケル商業的地盤確保ヲ必要トシ「ハル」聲明ヲ疑惑視シ居ル向アルモ一般ニハ右ハ米ノ對極東平和政策ノ現レト見做シ居ル趣ハ二日「ユーピー」ニ依リ當地各英字紙ニ大キク報道セラレタルカ一日重慶發「ユーピー」ハ支那側反響トシテ右ハ米國ノ對支友好政策ノ表示ナリト歡迎セラレ居ル趣報シ居ル處本件ニ關スル報道ハ「ユーピー」ノミ之ヲ取扱居レリ  
本件ニ關スル上海「イブニングポスト」(二日)及「チャイナプレス」(三日)ハ社説ヲ掲ケ「ポスト」ハ之カ實現ハ將來ノ事ナルモ米國カ支那ニ對シ帝國主義的野望ヲ有シ居ラサル旨ノ意思表示ナリト述ヘ「プレス」ハ英米ノ極東政策

ハ充分一致シ居ルヲ以テ英モ米ニ倣ヒ同様聲明ヲ爲スヘキヤニ思考セラルル處從來日本ハ治外法權ヲ濫用シ不必要ニ支那ノ内政ニ干渉シ其ノ發展ヲ阻害セルノミナラス英米ノ權益ニモ危害ヲ加ヘ來レル爲英米ハ其ノ治外法權撤廢ハ一層支那ヲ強力ニシ日本ヲ壞滅スルニ役立つト信シ斯ル措置ヲ促進セシムル事トナルヘシト論シ「タイムズ」ハ在支治外法權撤廢ニ付テハ南京政府モ重慶政府ト同様既ニ態度ヲ明白ニセル所ナルモ問題ハ事變終了後之ヲ如何ニシテ實現スルヤニアリ現狀ヲ急激ニ變化スル事ナク徐々ニ之ニ至ル事絶對必要ナルヘシト論評シ居レリ  
北京、天津、南大、漢口、香港へ轉電セリ

1453 昭和16年6月20日 在上海堀内総領事より  
松岡外務大臣宛

米国の対日世論が急激に硬化しているとの報

道報告

機密第一六九四號

(6月23日接受)

昭和十六年六月二十日

在上海

總領事 堀内 干城(印)

外務大臣 松岡 洋右殿

米國對日輿論激變ヲ報セル「チャイナプレス」

記事報告ノ件

六月十六日當地英字紙「チャイナ、プレス」ハ在桑港特派員ヨリノ通信トシテ最近米國ニ於ケル對日輿論ノ激變ニ關シ左記内容ノ記事ヲ掲載セルニ付何等御參考迄茲ニ報告ス本信寫送付先 在支大使

記

最近支那及日本ヨリ歸國セル引揚米國人ノ等シク感スルコトハ米國ノ極東特ニ日本ニ對スル一般輿論ノ激變ナリ  
二年前ニ於テハ米國人ハ日支事變ニ關シ弱者支那ニ對スル同情心ヲ示ス程度ニテ直接米國ニ關係アルコトトハ思ハサル態度ナリシモ今日ノ米國人ハ支那ノ事情ヲヨク認識シ居ルト同時ニ非常ノ關心ヲ有スルニ至レリ此等引揚米國人ハ現在ノ對日態度ノ急變ニ關シ左ノ通り觀測シ居レリ

一、米國將來ノ運命ハ太平洋ニ在リ從ツテ太平洋ニ於ケル  
平和ト繁榮ヲ亂ス者ハ米國ニ對スル脅威者ナリ  
二、米國トシテハ最早日本ヲ友邦國ト認ムルヲ得ス

三、支那ハ現在英國ノ西半球ニ於ケル如ク東洋ニ於テ米國

ノ爲ニ戰ヒツツアリ故ニ支那ニ對シ單ナル糧食ノミナラス最大限度ノ軍器軍需品ノ援助ヲ與フ可キナリ

引揚米國人ノ注意ヲ引キタルコトハ「ル」大統領及「ウイ  
ルキー」氏ノ如キ有力者カ對支借款及物的援助ノ提供ヲ強  
調シ居ル點ナリ

數年前日米戰爭ノ可能性ヲ語ル者ハ主戰論者トシテ非難サ  
レタルモ今日ニテハ日米戰爭ノ必然性ニ付テ公然議論セラ  
ルル事態トナリ對日石油禁輸ノ要求サヘ各方面ヨリ提起サ  
レ居ル狀態ナリ

次ニ全國到ル所ノ映畫館ニ於テ日本軍ノ重慶爆撃、佛印派  
遣軍部代表等ノ「ニュース」上映ノ場合ニハ全觀客中ヨリ  
「ブーイング」ノ聲ノ湧キ上ルヲ認ムルニ到リ居レリ

1454

昭和16年7月17日 在上海堀内總領事より  
松岡外務大臣宛(電報)

米國大統領が派遣した特使ヲチモアの香港到  
着により重慶政權の対英米ソ外交工作が活発  
化したとの情報報告

第一二七八號

上海 7月17日後発  
本省 7月17日夜着

HQニ依レハ十六日香港ニ到着セル「ラチモア」ノ來渝ヲ  
目前ニ控ヘ重慶側ノ對英米蘇外交工作ハ極メテ活潑化シ英  
米蘇ノ對支共同援助計畫ノ具體化ヲ計ルヘク蔣ヲ始メ宋美  
齡、孔祥熙、郭泰祺、孫科、徐堪、白崇禧、蔣經國等ハ來  
ル二十六日重慶ニ英米蘇支第一次正式會議ヲ開催スヘク策  
動中ナルカ一方「ラ」ハ支那ノ統一戰線結成論者タル關係  
モアリ國共關係調整ニモ一役買ヒ積極的ニ之力速急解決ヲ  
計ルヘシト觀ル向キアリ  
南大、漢口、北大、天津、香港ヘ轉電セリ

1455 昭和16年7月20日  
在上海堀内総領事より  
豊田外務大臣宛(電報)

ラチモアの重慶到着について

上海 7月20日後発  
本省 7月20日後着

第一三〇一號

一、十九日重慶發「ユーピー」電ハ「ラテイモア」ハ同日來  
渝シ蔣介石ニ「ル」大統領親書ヲ手交セル旨報シ居レリ  
二、十九日香港發「ユーピー」電ハ「ラテイモア」ハ同朝空  
路赴渝ニ際シ三百五十八名ノ追放滿人ノ署名セル目下重  
慶ニ監禁中ナル張學良釋放嘆願書ヲ携行セル旨並ニ右嘆  
願書ハ張ハ(イ)國共妥協ヲ爲シ得ル唯一ノ人物ナリ(ロ)全滿  
洲軍領袖ニシテ現南京政府要人タル鮑文樾コイクケンノ  
兩名ヲ重慶側ニ轉向セシメ得ル地位ニ在リ(ハ)滿洲ニ於テ  
新生運動ヲ指導シ得ル人物タリトノ三項目ヨリ成ル旨報  
シ居レリ  
南大、北大、滿、香港ヘ轉電セリ

1456 昭和16年7月28日  
在上海堀内総領事より  
豊田外務大臣宛(電報)

対日資産凍結令に関する各紙論調報告

上海 7月28日後発  
本省 7月28日夜着

第一三七二號

英米ノ今次對日經濟措置ニ關スル當地論調左ノ通り

## 一、英字紙

各紙共英米ハ今次ノ對日措置ニ依リ如何ナル日本ノ挑戰ニモ應スヘキ用意有リトノ決意ヲ示シタルモノニシテ太平洋戰爭ノ危險ハ益々増大セル一方日本ノ經濟的打撃ハ甚大ナルヘシトシ之ヲ歡迎スル態度ニ大體一致シ居レリ

(イ) China Press.

過去ニ於ケル日本ノ對英米政策ハ今次ノ對日報復措置ヲ餘儀ナクセシメタルモノナル處日本ハ從來其ノ軍需品ノ八割六分迄英米蘭印ニ仰キ居タル事實ニ鑑ミ經濟的打撃ハ極メテ甚大ナルカ更ニ英米ハ近ク一層強硬ナル經濟的制裁ヲ考慮シ居リ斯クテ日本ノ經濟ハ完全ニ停止スヘク日本ハ破レカブレノ餘リ武力行動ニ出ツル虞アル處問題ハ日本海軍並ニ經濟人カスル狂氣シミタル陸軍々人ノ政策ニ屈服スルヤ否ヤニ在リ

## (ロ) North China Daily News

英米ノ今次行動ニ依リ日本ノ積極派ト雖モ英米ハ已ムヲ得サレハ戰爭ヲ厭ハサルヘキ決意有ル事ヲ了承シタルヘキカ其ノ經濟逼迫ハ益々深刻トナルハ言ヲ俟タス日本ノ新秩序建設トハ南洋ノ資源ノ獨占ヲ意味スルニ

反シ英米ノ權益ハ他國ヲ脅威スルカ如キモノニ非ス現ニ日本モ之ニ依リ多大ノ恩惠ヲ被リ來リタリ今後若シ日本カ日支事變終結目的ノ下ニ滇緬道路遮斷ヲ目指シテ「タイ」ニ進出セハ直ニ英國ト衝突スヘク英米ハ毫モ日本トノ戰爭ヲ欲セサルモ挑戰ニハ躊躇セス應スル用意有リ

## (ハ)<sup>(2)</sup> 上海「イヴニング・ポスト」

米國ハ今次對日措置ニ依リ始メテ攻勢ニ出テタルカ之ニ止マラス戰爭ニ至ラサル範圍ニ於テ他ニ執リ得ル幾多ノ手段ヲ有スルカ日本ノ權威ハ地ニ落チタリ在日本米國資金ハ既ニ事實上凍結セラレ居ル爲日本ハ對應措置ヲ執リ得サルヘキカ飽ク迄英米ノ警告ヲ無視シテ行動セハ其ノ因ツテ來ル責任ハ總テ日本側ニ在リ

## (ニ) 「ウツドヘッド」論評

今次米國ノ行動ハ日本ノ佛印侵略ニ對スル最初ノ報復措置ニ過キササルカ之ニ依リ日本ノ貿易ハ完全ニ杜絶シ最早武力以外ニ南洋ノ軍需品ヲ獲得スル途無クナリタル譯ナルカ日本カ最後ノ破滅ヲ救ヒ得ル唯一ノ方法ハ政策ノ根本的變更ニ在リ

三、漢字紙

抗日紙ハ何レモ今次米國ノ措置ハ對日經濟制裁ノ強化ニシテ支那ニ執リテハ百利アリテ一害ナシト斷シ正當ナル商業ニ必要ナル米國爲替ハ依然供給セラレルニ付上海ニ於テハ投機者及侵略者ノ外國爲替所得ヲ困難ナラシメ却テ法幣安定資金ノ充實ト共ニ法幣安定強化ニ資スヘシト云フニ大體一致シ居レルカ申報ハ「ガソリン」石油其他少數工業品以外ノ日常必需品物價ハ國內ノ他地方ヨリ供給セラレ決シテ騰貴ノ惧無ク米貨ニシテモ日本金暴落ニ對スル法幣ノ反騰ニ依リ更ニ低廉ト成ル見込ナリト論シ居レリ

南大、北大、香港、河内、西貢へ轉電セリ

1457 昭和16年8月2日 在上海堀内総領事より  
豊田外務大臣宛(電報)

ラチモアが米国政府に対し重慶政權強化策を  
具申したとの情報報告

上海 8月2日後発  
本省 8月2日夜着

第一四二四號

HQニ依レハ「ラチモア」ハ重慶到着後「ゴース」及「フオックス」等ト意見交換ノ上最近本國政府ニ對シ重慶ノ政治經濟強化策ヲ具申シ之カ前提條件トシテ政府部内一部改組ノ必要アル旨力説シ居ル模様ニシテ一部ニ於テハ將來孔祥熙ハ行政院副院長ノ職ニ留ルノミニテ財政部長ハ結局宋子文ニ落付クヘク内政部長ハ張群ノ兼任、經濟部長ハ翁文灝ノ留任ヲ見ルモ部内ノ實權ハ宋子文系ニテ掌握セララルヘク又軍政部長何應欽ニ對シテハ米蘇兩國共國共合作上ノ癈トシテ不滿ヲ表明シ中共側ハ國內團結強化ノ名目下ニ反何運動展開宋子文亦之ニ同情ヲ表シ居ル關係上何ノ轉職ハ早晩實現セラルヘシト見ル向キ多ク中共及國社黨方面ニテハ右ハ米國ノ對支指導權強化ノ第一歩ト看做シ居ル由南大、漢口、北京、天津、香港へ轉電セリ

1458 昭和16年8月13日 在ニューヨーク森島総領事より  
豊田外務大臣宛(電報)

米国の援蔣軍需物資輸出状況報告

ニューヨーク 8月13日後発  
本省 8月14日前着

第四〇四號(機密)

往電第三九二號ニ關シ

情甲

一、十五日蘭貢向ケ「ニユウジヤーシー」州「ホボウケン」  
(紐育市對岸)發ノ米國籍ノ新造大型貨物船Warrior(海  
事委員會徵用)ハ對支援助物資ヲ滿載シ居ルカ其ノ品目  
數量左ノ通

「ダイナマイト」一千噸「シヤベル」六萬個鶴嘴一萬個  
「アネフアルト」三千噸病院用毛布二萬個純滑油一千噸  
米陸軍用重量「トラツク」(「ボンチャツク」製)三百五  
十臺、同船一千五百噸建築用鐵材一千噸右航海諸經費總  
額約五十六萬弗ニ及ヒ何レモ曩ニ貸與資金中ヨリ對支援  
助物資輸送經費トシテ割當ラレタル三千五百萬弗中ヨリ  
支出ノ筈

本船ニハ尙機關銃及彈藥約五十噸積込ノ豫定ナリシモ積  
荷滿載ノ爲十八日紐育ヲ出港スヘキ和蘭船「Parican」(同  
シク對支援助物資輸送船ナルモ積荷目下不詳)ニ積込ノ

答

三、支那國防供給會社カ活動ヲ開始セル本年五月一日以來米  
國ノ對支物資ノ數量ハ約四萬五千噸乃至五萬噸ニシテ目  
下支那側ハ毎月八萬噸輸送船數十隻ヲ要求シ居ルモ米國  
國防竝ニ對英援助計畫ニ基ク物資船舶不足ノ爲八月現在  
ハ輸送船四隻ニ過キス支那側要求通ノ援助實現ハ十月頃  
以降ノコトナルヘシ(冒頭往電通リ取扱ハレ度シ)



1459

昭和16年9月2日 在ブラジル石射大使より  
豊田外務大臣宛(電報)

事変解決は英米をも相手としなければ実現不  
可能の事態に陥っており日米交渉の結実を切  
望する旨意見具申

リオデジャネイロ 9月2日後発  
本省 9月3日後着

第三七九號(館長符號扱)

近衛總理ヨリ米大統領ニ寄セラレタル親書(編注)ハ本使ニ於テ其  
ノ内容ヲ窺。スル次第ニ非サルモ帝國ノ前途ヲ遠ク慮リタ  
ル政府ノ高邁ナル政策ヨリ打算セラレタル御措置ト推憶シ

5 米国による対日制裁措置の強化

只管其ノ結實ヲ翹望シテ已ム能ハス卑見ヲ以テスルニ支那事變ハ其ノ當初ニ於テ日支間ニ幾度カ解決ノ曙光アリシニ拘ラス我國内情勢ニ制セラレテ機ヲ逸シ今ヤ英米ヲモ相手トスルニ非サレハ之カ結末不可能ノ事態ニ陥リタルハ一大恨事ナリト雖モ此ノ際他力ヲ引入ルルモ一大手術ヲ敢行スルニ非サレハ事變ハ帝國ノ癌腫トシ今次大戦終了後ニ迄取残サレントスルノ關頭ニ在リト存セラルルニ付テハ政府ニ置カレテハ萬難ヲ排シ事變ノ解決ト東洋和平ノ確立トヲ連關實現セラレタル上帝國將來ノ飛躍ヲ期シ隱忍國力ノ再涵養ニ向ツテ新シキ歩ヲ踏ミ出サルル事切望ニ堪ヘス今次大戦及日支事變ヘノ對處策ニ付テハ一昨年秋冬ノ候和蘭ヨリ卑見ヲ電稟シタル事アリタルカ國際情勢更ニ緊迫ノ今日更ニ右卑見ノ再檢討ヲ仰度キ次第ニ付右御參照ヲ得ハ幸甚ナリ政府最高ノ御方針ニ對シ妄リニ獻言ヲ爲スハ其ノ任ニ非サルモ憂國ノ情抑フル能ハサルモノアリ敢テ卑見ヲ披瀝スル次第ナリ御諒。恕ヲ願フ

米へ轉電セリ

編注 『日本外交文書 日米交渉——一九四一年——』上巻第163

文書別電一。

1460

昭和16年10月24日

在上海堀内総領事より  
東郷外務大臣宛(電報)

米国の対重慶軍事支援に関する情報報告

上海 10月24日後発

本省 10月24日後着

第一九五一號

十一日丁K來電ニ依レハ米國政府ハ既ニ正式ニ重慶ニ對シ對日反抗ニ必要ナル武器ヲ供給竝ニ技術的合作ヲ爲スヘキ旨通知スルト共ニ過般到着ノ米國軍事視察團ハ團長以外ハ全部長期滞在セシメ支那側工作ニ協力セシムル豫定ナル趣ナルカ十九日WA情報ニ依レハ米國側ハ蔣介石ニ對シ三十箇所ノ飛行場ノ新設方ニ關シ

(一)支那側ヨリ土地ヲ提供ス

(二)米國側ハ飛行場建設所要ノ經費一切ヲ負擔ス然シテ航空科士官ニ採用スル外支那側ヲ關與セシメス一切ヲ米國側ノ管理ニ置ケ

トノ條件ヲ提出シ居ル趣ナルカ米國側ノ蟲ノ好キ要求ニ對シテハ蔣モ内心大イニ不滿ヲ感シ居リ祕密國防會議ヲ召集協議中ナル由  
南大へ轉電セリ

1461

昭和16年12月5日

在上海堀内総領事より  
東郷外務大臣宛(電報)

日米戦争が近く到来すべしとの観測やシンガ

ポール・香港などの情勢逼迫を伝える上海各

紙報道振り報告

上海 12月5日後発

本省 12月5日夜着

第二二二六號

五日當地各紙ハ日米關係竝ニ極東ノ危機ニ關スル各地通信ヲ以テ其ノ重要紙面ノ大半ヲ埋メ居レルカ就中「ハル」長官カ激烈ナル對日攻撃談ヲ發表セル旨ノ四日華府UPヲ始メ日米間ノ最悪ノ事態ハ本月中旬頃到來スヘシトノ東京同盟ヲ引用セル同日東京UP東京各紙カ一齊ニ英米佛印「タイ」攻撃論ヲ再開セル旨ヲ報セル同日東京同盟及UPハ新

嘉坡、香港、盤谷、「バタヴィア」等ノ情勢逼迫ヲ報セル各外電ト共ニ特大キク報道セラレ居ル處當地英字紙ノ論調ヲ見ルニ日本カ「タイ」ヲ攻撃セハ太平洋ノ戰爭ハ不可避ナルヘキモ若シ日本ニシテ樞軸ヲ離脱シ英米側ニ参加スルカ或ハ「タイ」ノ中立ト領土保全ヲ尊重シ平和的手段ニ依リ「タイ」ノ協力ヲ得ルニ於テハ平和ハ保持シ得ラルヘシトナスニ大體一致シ居レリ  
南大、北大、滿、香港、河内、盤谷、新嘉坡ニ轉電セリ

編注 昭和十六年の日米交渉については、『日本外交文書

日米交渉―一九四一年―』上・下巻を参照りたい。